

令和3年度使用中学校用教科用図書

# 専門員調査研究報告書

令和2年8月6日（木）

埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会

種目（国語）

|                  |  |                 |
|------------------|--|-----------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>新しい国語</p>   | <p>2<br/>東書</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>                 ○「読むこと」の教材末の「てびき」の中に「広がる言葉」を設定したり、資料編「言葉を広げよう」と関連づけたりすることで、語感を磨き語彙を豊かにすることができるよう工夫している。<br/>                 ○「論理的な言葉の力」において情報の整理の仕方や情報と情報の捉え方を、学習者の身近な例を題材にして学ぶことができる。<br/>                 ○古典学習では、折り込みを用いるなどして、作品のあらすじや歴史的背景などが色彩豊かな絵巻や図版が紹介され、古典を深く理解することができる。<br/>                 &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>                 ○「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の各教材で身に付けさせたい資質・能力が「言葉の力」と題した囲みで、学習者にも分かりやすい表現で明示されている。<br/>                 ○学習者同士が助言し合ったり、議論を通して考えを深めたり、考えを生かして結論をまとめたりする課題解決的な言語活動を数多く設け、対話を通して学びを深められるようにしている。<br/>                 &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>                 ○巻末の『「言葉の力」一覧』で、中学校3年間の学習を見通したり、振り返ったりすることができる。<br/>                 ○導入部分にキャラクターが登場し、主体的な言葉の学びへ導いている。「学びの窓」では、日常生活に即した場面を漫画で描き、学習者の学習意欲を引き出す工夫がされている。<br/>                 &lt;国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成するための工夫&gt;<br/>                 ○「言葉の力」に対応する「目標」「問いかけ」が示され、「言葉の力」を意識しながら学習できる。教材末尾の記述式の「振り返り」で「言葉の力」の確実な習得を促し、自己評価できるようになっている。<br/>                 ○「学びを支える言葉の力」では、学んだことが他教科の学習や実生活でどう生きていくのかが、「つながる・広がる」の囲みで具体的に示されている。</p> |                 |
| <p>資 料</p>       | <p>○資料編「言葉を広げよう」では3学年で1555の語彙を提示し、学習者の語彙を豊かにしようとする工夫がされている。<br/>                 ○教科書の作品と読み比べできる小説・説明文や古典の解説文、語彙・漢字資料など、多くの資料が掲載されている。<br/>                 ○Dマークが示された教材では、インターネットを通して利用できるデジタルコンテンツが用意され、音声や映像、教科書と連動した資料を閲覧できる。</p>  |                 |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○各部分の認識や重要部分の判別がしやすいよう、文字の大きさと書体、罫線や囲みの使い方、色遣いが工夫されている。書体は小学校教科書に合わせた特別な明朝体を使用している。<br/>                 ○UDの観点から、配色とデザインについて専門家の検証・校閲がされている。未学習の漢字には振り仮名が付けられ、漢字への抵抗感を和らげている。</p>  |                 |
| <p>総 括</p>       | <p>各教材を「目標」「問いかけ」・→「言葉の力」→記述式の「振り返り」という流れで構成し、学習者が主体的に取り組んだり振り返ったりできるようになっている。「言葉の力」「学びを支える言葉の力」などの設定により、学習者が言葉に着目し、言葉による見方・考え方を働かせながら言語活動に取り組めるよう工夫されている。他教科の学習と関連し、相互に学びを深めることができる題材を多く取り上げ、教科関連マークで示している。</p>   |                 |

種目（国語）

|                     |   |                      |
|---------------------|---|----------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>現代の国語</p>  | <p>15</p> <p>三省堂</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びの道しるべ」で教材の言葉をきっかけに多様な観点から語彙を豊かにする「語彙を豊かに」を設定したり、資料で「語彙の広がり」などを掲載したりすることで、語感を磨き、語彙が豊かになる工夫がされている。</li> <li>○各学年に「情報に関係づける」を設け、各教材に「思考の方法」を位置づけたりして、全体を通じて「情報の扱い方」を学習できるようにしている。</li> <li>○古典教材には、色鮮やかな折り込みページを配し、古典への興味と学習意欲を喚起したり、資料編「古典芸能に親しむ」で作品を掲載したりしている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活や現代社会における課題を多く取り上げ、言語活動を系統的に設定し、対話を通して考えたり、問題解決したりする機会と場を充実させている。</li> <li>○読み方の方略を学ぶ「読み方を学ぼう」や「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材に示した「学習のポイント」「思考の方法」など、「学び方」を学ぶ工夫を施して、汎用的な力を身に付けられるよう工夫している。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○対話や考え方の共有などの共同的な言語活動の場を適切に設け、仲間とともに学習の達成感を得て、学ぶ意欲を高めるようになっている。</li> <li>○各教材に「学びの道しるべ」を設け、学習の見通しをもたせている。冒頭に学習目標、最後に学習を振り返る機会を設けており、身についた力を自分で診断・評価し、次に生かすことができる。</li> </ul> <p>&lt;国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○価値が多様化するグローバル社会で求められる幅広い資質・能力の育成につながる題材が設定され、他教科の学習や社会生活における言語活動で活用できるようにしている。</li> <li>○日常生活や社会生活の課題を取り入れ、学習で身に付いた力が実際の場で生かされるように、話題・題材、知識・技能、活動の具現化を図っている。</li> </ul> |                      |
| <p>資 料</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料編には「情報を活用する」「古典芸能に親しむ」等があり、様々な場面で活用できる実践的知識や具体的な学び方が学習できるようになっている。</li> <li>○巻末に「読み方を学ぼう」「思考の方法」の一覧があり、年間を通しての学習内容がひと目で分かり、学びの振り返りがしやすい工夫がされている。</li> <li>○「読書の広場」と古典教材に二次元コードを設け、ウェブサイト上に、図解した読みの方略や、補充教材として使える資料を豊富に掲載している。</li> </ul>  |                      |
| <p>表記・表現</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○識別しにくい配色を避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けている。また、色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるよう工夫している。</li> <li>○意欲的に学習が進められるよう、分かりやすく読みやすい用語・表現を用いている。図解を適切に配し、学習内容が具体的に分かるようにしている。</li> </ul>  |                      |
| <p>総 括</p>          | <p>各学年巻頭の「領域別教材一覧」と各教材冒頭に目標が明示され、教材の最後には学習を振り返る機会が設けられており、見通しをもった主体的な学習と振り返りができるようになっている。「グループディスカッション」「情報に関係づける」によって話し合いの方法や対話を通して自分の考えを深める言語活動に取り組めるよう工夫されている。「読み方を学ぼう」「思考の方法」で他教科や社会生活で活用できる方略を学べるようになっている。</p>  |                      |

種目（国語）

|                     |   |                     |
|---------------------|---|---------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>伝え合う言葉 中学国語</p>  | <p>17</p> <p>教出</p> |
| <p>内容</p>           | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材末にある「みちしるべ」の中の「この教材で学ぶ言葉」や折り込みの「理解に役立つ言葉」「表現に役立つ言葉」で語句、語彙を豊かにし、理解や表現に結びつけられるように工夫している。</li> <li>○日常で接するメディアについて、媒体の特色や扱い方、接する際のモラルや注意点など、メディアに対する知識と活用を高める教材が掲載されている。</li> <li>○代表的な古典作品が掲載され、付録「言葉の自習室」では、古典に関する知識や伝統芸能に関する教材を設けて、古典学習を深めることができる。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、「目標」「学習活動の流れ」で、学習の見通しと重点、言語活動を示している。「読むこと」教材では、「みちしるべ」で言語活動を位置づけた授業の学習課題を示している。</li> <li>○「学びナビ」を教材冒頭に位置づけ、語彙と情報の扱い方を関連づけた「思考」を取り立て、文章などの理解力や自らの表現力を高められるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各領域等の教材で、一人一人が課題をもち、「問う」力を身に付け、自ら学ぶ意欲をもつように教材を選定している。</li> <li>○各学年の「言葉の地図」では、教科書の内容を見通すため各教材での指導事項や言語活動が一覧できるようになっている。また、自らの学びを振り返る観点も示している。</li> </ul> <p>&lt;国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材では、教材末の「学びを生かそう」で、国語科で学んだことを他教科や日常生活、社会生活に活用できるようにしている。</li> <li>○学習過程において、互いの立場を尊重しながら、課題の解決に向けて自分の意見を交流する場を設け、「伝え合う力」の育成を図っている。</li> </ul> |                     |
| <p>資料</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○挿絵・図版・写真は、生徒の学習意欲を高めるものや文章の理解を助ける資料性の高いものなど、学習に必要なものを十分に取上げている。</li> <li>○巻末に「理解に役立つ言葉」「表現に役立つ言葉」を設け、語彙の拡充と情報の扱い方とも関わる倫理的思考力の手立てとなるようにしている。</li> <li>○教材内容に応じて「まなびリンク」を設け、学習時に参照できる資料をウェブサイトで見られるようにしている。</li> </ul>  |                     |
| <p>表記・表現</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○文学作品では原点を尊重した表記を原則としている。短歌・俳句・詩教材では原点の表記を用い、表外漢字・表外音訓や基準と異なる送り仮名などには振り仮名をつけている。</li> <li>○3学年を通して基準を統一し、適切な表記の仕方・用法が身に付くように考慮されている。一部にユニバーサルデザインに配慮した書体が使用されている。</li> </ul>   |                     |
| <p>総括</p>           | <p>各教材にある「学びナビ」により、その教材で「何を学ぶか」が示され、見通しをもって学習が進められようになっている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材では、表現活動の中で働く「思考力」が学べるように工夫されている。SDGs教材の設定により、学習者自身が課題を発見し、「正解のない問い」に向き合い、他教科と関連させながら自分の考えを深めることができるようになっている。</p>   |                     |

種目（国語）

|                     |   |                           |
|---------------------|---|---------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>国語</p>   | <p>38</p> <hr/> <p>光村</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習者の語彙を広げ、語感を磨くことができる作品や語彙力を高める教材「言葉を集めよう／比べよう／選ぼう」を各学年に設定し、巻末資料に「語彙を豊かに」を掲載して語彙の充実を図っている。</li> <li>○情報について「情報整理のレッスン」や「思考のレッスン」で、情報の扱い方を解説し、単元「情報社会を生きる」で情報活用能力を高める工夫がある</li> <li>○古典導入として「古典の世界」が設定され、3年間の古典学習を見通せるようになっている。QRコードで朗読音声を聞くことができるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材では、社会生活や他教科の学習の基盤となる多様な言語活動が行えるようになっている。「言葉の窓」を設け、学習で身に付ける資質・能力について解説している。</li> <li>○「読むこと」の教材では、学習過程を①捉える②読み深める③考えをもつ3段階にして課題を示し、個→集団→個で対話的に自分の考えを確立して、根拠を明確にして意見が述べられるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭「学習の見通しをもとう」で1年間の国語学習全体像を見渡すことができ、言語活動を通して身に付ける資質・能力が明確に示されている。</li> <li>○相手や目的、意図、場面に応じ、互いの立場や考えを尊重して、問題解決に向けて協働する活動を通して、コミュニケーション能力を育成するよう教材化を工夫している。</li> </ul> <p>&lt;国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報を正確に読み取り、根拠をもって書く力、自分の思いや考えを価値づけながら表現豊かに書く力を身につけられるよう、多様なテーマ、教材を用意している。</li> <li>○各学年の最後に、「学習を振り返ろう」を設け、身に付けた力を自覚し、他教科や日常生活に生かしていけるよう工夫されている。</li> </ul> |                           |
| <p>資 料</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○挿絵や写真、図・グラフなどは目的に応じて効果的に活用できるよう、文章の理解を助ける資料的なもの、内容を効果的に解説するもの等になっている</li> <li>○学習の窓一覧「文学的（説明的）な文章を読むために」では、学習事項の意識化・定着化が図れるよう工夫している。</li> <li>○教科書の随所にあるQRコードを読み取ることで教科書の内容に連動したコンテンツを閲覧、利用できるようになっている。</li> </ul>  |                           |
| <p>表記・表現</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「読むこと」の教材の新出漢字は、すべての音訓を示したうえで、本文で提出した語を振り仮名つきで示すことで読みの負担を軽減し、漢字を他の場面で活用し、定着できるよう工夫している。</li> <li>○本文には光村明朝体を用い、画数や点画の形など手書き文字と齟齬がないよう配慮している。小さな文字はUDフォントを用いて視認性を高めている。</li> </ul>   |                           |
| <p>総 括</p>          | <p>各教材で「学習」（手びき）によって学習過程が明示され、学習者が主体的に学んだり振り返ったりできるようになっており、身に付ける力の焦点化も図られている。「情報社会を生きる」や「情報整理レッスン」、SDGs関連の資料などにより、学習者が情報を整理し、自身の学びを言葉による見方・考え方を働かせながら言語活動に取り組めるよう工夫されている。他教科との有機的な関連を図り、教科横断的に取り扱えるよう、話題・題材の選定に配慮がある。</p>  |                           |

種目（書写）

|                     |   |                          |
|---------------------|---|--------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>新しい書写</p>  | <p>2</p> <hr/> <p>東書</p> |
| <p>内容</p>           | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。中学校書写で学ぶ知識及び技能を「書写のかぎ」と名付けて系統的に整理し、学年の発達段階に応じて各単元に配置している。</li> <li>○「まとめ」で学習内容を振り返り、「書写テスト」で自らの理解度を客観的に表すことができるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「見つけよう」で書体を比較させたり、その差異の理由を考えさせたりすることを通して、思考力、判断力、表現力を養えるようにしている。</li> <li>○「生活に広げよう」で身に付けた知識・技能をどのように生かすか、身近な場面を題材に実生活で生かせるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「書写で学ぶこと」で書写学習の意義や何ができるようになるかを示し、学習の見通しをもたせられるように工夫されている。</li> <li>○「振り返って話そう」では、学んだことを自分の言葉で説明することや、対話的な活動を取り入れて自己評価ができるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;硬筆と毛筆との関連&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○硬筆文字から課題を意識させ、毛筆で書いて確認し、硬筆で他の文字を書くことで定着を図るという展開になっている。</li> <li>○「書写活用ブック」という硬筆練習教材があり、毛筆での学習内容を硬筆にも生かせるよう関連を図っている。</li> </ul> |                          |
| <p>資料</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○インターネットを使って学習に役立つ運筆動画や資料などを見ることができ、プロジェクトで繰り返し投影したり、生徒がタブレットで見たりと、書く動きをわかりやすく示すことができる。</li> <li>○コラム「文字のいずみ」を設け、伝統的・文字文化から様々な職業に生かされている現代の文字文化まで様々な題材を掲載している。</li> </ul>  |                          |
| <p>表記・表現</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きの右ページに学習目標と学習の流れ、左ページに教材文字を配している。また、A B判の大きな紙面を活用し図版を大きくして資料性を高め、書きこみ欄を充実させている。</li> <li>○左利きの生徒の学習しやすさを考慮し、原則として教材文字を上、書きこみ欄を下に配置し、利き手に寄らず教材文字が見やすいように工夫している。</li> </ul>  |                          |
| <p>総括</p>           | <p>学習事項を明確にし、「なぜ書写を学ぶのか」「書写学習を将来にどう生かすのか」を考え、振り返りができる工夫をしている。国語と連動して学ぶことのできる教材や言語活動を取り上げ、他教科に学びが広がる構成となっている。活用単元や「書写活用ブック」の題材として、防災・安全やキャリア教育、人権・福祉など現代的な課題に対応したものも取り上げられている。</p>   |                          |

種目（書写）

|                     |  |                      |
|---------------------|--|----------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>現代の書写</p>   | <p>15</p> <p>三省堂</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。各教材の冒頭に「書き方を学ぼう」を設置し、具体的な字形例とともに示すことで、習得すべき書き方のコツを、明確にとらえられるよう工夫している。</li> <li>○毛筆で学習した運筆方法などを硬筆で確認し、繰り返し練習することで学びの定着を図ろうとしている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「見つけよう・考えよう」によって出された単元の課題を文字の書体を比較して考える等、主体的に学習を進められるよう構成している。</li> <li>○学習者の実生活につながる課題（はがきの宛名書きなど）が設けられており、学習した内容を生かしながら表現活動ができるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身のまわりの文字文化に触れて、知識を蓄え、文字文化の担い手として自らを豊かにする誘いとなるような教材を設けている。</li> <li>○「振り返ろう」では、学んだことを意識させながら書かせることで、それが実生活でどのように生かしているかを確認し、記述させるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;硬筆と毛筆との関連&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆で学習した後に、様々な文字を硬筆で書いて練習する「書いて身につけよう」を設置し、毛筆と硬筆の関連を図っている。</li> <li>○毛筆で学習した内容を、他教科や実生活でも硬筆で活用できるよう実際に書き込むことで、学習の振り返りができるよう工夫されている。</li> </ul> |                      |
| <p>資 料</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「日常の書式」「文房四宝」「書き初め」等、豊かな文字文化に触れるための資料が巻末に掲載されている。また、随所にコラムを設け、学習者の意欲を喚起する挿絵や写真図版を掲載している。</li> <li>○教科書に掲載されている二次元コードを読み取ることで、毛筆・硬筆の姿勢や持ち方、筆の運び方などの動画が見られるようになっている。</li> </ul>  |                      |
| <p>表記・表現</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きの右ページに学習目標と学習の流れ、左ページに教材文字を配している。それぞれの学習内容に関して、何を、どの順番で学習すればよいかが一目で分かるレイアウトになっている。</li> <li>○学習上重要な項目は大きな文字や目立つフォントで示したり、項目の間に区切り線を引いて、他の項目との区別を明確にしたりして読みやすくしている。</li> </ul>   |                      |
| <p>総 括</p>          | <p>各教材を見開きで構成し、学習目標と振り返りが設置されていたり、学習内容が一目で分かるように示されたりしている。国語と密接に連携しており、効果的な学習ができるよう工夫されている。学習者の興味を引く資料が多く掲載されていて、学習することで多様な場面で活用できる力を身に付け、文字文化の担い手として関わり方を考えられる構成となっている。</p>   |                      |

種目（書写）

|                     |   |                     |
|---------------------|---|---------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学書写</p>   | <p>17</p> <p>教出</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。各単元において、硬筆・毛筆との関連学習や系統的・段階的な学習によって基礎・基本の定着を図ろうとしている。</p> <p>○毛筆では行書特有の穂先の動きや筆の運びが分かるよう、二色の薄墨で示している。硬筆での試し書きから毛筆での書き方が学べるようになっている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○「考えよう」の問いで、文字同士を比べたり、その違いの理由を考えたりしながら学習目標を意識して、自分の課題に向かえるよう構成されている。</p> <p>○「学習を生かして書く」では、学年ごとの学習内容を活かして表現活動に取り組めるよう題材を設定し、実生活で表現の幅が広がるよう工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○「学習の進め方」（①目標②考えよう③生かそう④振り返ろう⑤学習や日常生活に生かそう）と毛筆基本紙面のつながりが分かりやすく示されている。</p> <p>○「振り返ろう」では、学習課題が解決できたかどうかを自己評価し、できたかもう少し努力が必要かを、直接書き込めるようにしている。</p> <p>&lt;硬筆と毛筆との関連&gt;</p> <p>○毛筆で学習した運筆方法を、硬筆の他の文字に転移できる教材が豊富に例示されており、日常化を図ることができるようになっている。</p> <p>○基本学習の単元の終わりに、毛筆で学習したことを硬筆で確認できる「学習を生かして書く」という教材を設けている。</p> |                     |
| <p>資 料</p>          | <p>○教科書に掲載のQRコードでアクセスできるウェブサイト「まなびリンク」により、真上から撮影した動画を見ることができ、運筆のリズムや字形の取り方を確認することができる。</p> <p>○巻末には、学習内容を確認するための「書写テスト」や「書写教室」「書き初め」「補充教材集」等を掲載し、書写を広く学べるようになっている。</p>  |                     |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○見開きの右ページに学習目標と教材文字、左ページに学習の流れを配している。学習目標のポイントを確認するための書き込み欄を設けて記し、課題を意識して学習が進められよう工夫されている。</p> <p>○運筆方法が伝わるよう具体的な言葉で示されている。文字は読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用している。</p>   |                     |
| <p>総 括</p>          | <p>「何を学ぶか」「何ができるようになるか」を系統的・段階的に見通せる構成になっている。国語との関連を緊密にし、文学作品や古典などを取り上げ、普段の授業で連携を図ることができる。主体的・対話的で深い学びへ向かえるよう、話し合い活動を活性化させるポイントが示されている。各教科の書く活動とも連動し、他教科へ生きてはたらく書写力として示されている。</p>   |                     |



種目（書写）

|                     |   |                     |
|---------------------|---|---------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学書写</p>   | <p>38</p> <p>光村</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○教材ごとに「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。行書の主要教材は4ページ構成であり、基礎・基本がしっかりと習得できるようになっている。</p> <p>○「書写ブック」という硬筆練習帳がついており、毛筆での学習を定着させられるよう繰り返し練習することができる。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○「考えよう」の問いにより、文字を比較して筆使い等の違いに気づき、自分の課題を見つけたり、話し合ったりする活動が位置づけられている。</p> <p>○単元の終わりに「読みやすさ」を目指した文字の大きさや配列を意識した表現活動を設定し、学習を生かした取組となるように構成している。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○生徒が見通しをもって、主体的に取り組めるよう、①考えよう②確かめよう③生かそうという展開が一目で分かるように構成されている。</p> <p>○全教材に「目標」と自己評価の観点として「学習を振り返る」を明示し、知識・技能の定着や自己の変容を高められるよう工夫している。</p> <p>&lt;硬筆と毛筆との関連&gt;</p> <p>○別冊の硬筆練習帳「書写ブック」を付し、毛筆教材文字と同じ学習要素をもつ硬筆課題を豊富に設定している。</p> <p>○硬筆と毛筆の密接な連携を図り、毛筆での学習が硬筆に生きるよう「生かそう」という教材を設定している。</p> |                     |
| <p>資 料</p>          | <p>○巻末には「日常役立つ書式」「書き初め」等を取り上げて、実生活で活用できる力を身につけられるようになっている。また、随所に文字への理解・関心を高めるコラムが設定されている。</p> <p>○「QRコード」付きの教材は、運筆動画や用具の準備・片付けの解説動画など、学習に役立つ動画が見られるようになっている。</p>  |                     |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○見開きで学習目標と学習の流れ、次ページに教材文字を配している。発達段階に応じてわかりやすい文章で表現され、学習のポイントがひと目で分かる「学習の窓」が設定されている。</p> <p>○目次や小さな文字には、ユニバーサルデザイン文字が使われ、図表などは、すべての学習者が明確に識別できる色の組み合わせに配慮がされている。</p>   |                     |
| <p>総 括</p>          | <p>書写で身に付けた「書く力」を社会生活に生かせるよう、国語科をはじめ、他教科や学校生活で活用できる教材を取り上げている。国語と密接に連携し、古文や詩・短歌を書くことで、理解を深められる。他教科にも役立つ内容や、学校行事に関連した多様な例を掲載してあり、「日常生活に役立つ書式」で身に着けた書写力を日常生活にも生かすことができるようになっている。</p>  |                     |

種目（ 社会 地理的分野 ）

| 項目 \ 書名<br>項目 | 新しい社会 地理  | 2<br><hr/> 東 書 |
|---------------|---|----------------|
| 内 容           | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○難解な用語は巻末の「用語解説」で補足説明し配慮している。また、毎時間見開き右ページ下の「チェック」で、章末では「基礎・基本のまとめ」で基礎的・基本的な知識が習得できるように工夫されている。</li> <li>○「スキルアップ」が32項目設けられ、資料やグラフの読み取り方などの技能を習得できるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時間説明等の言語活動が行えるように「考える」や見開き右ページ下の「トライ」が設けられている。章末では「まとめの活動」で学習内容を表や図にまとめて表現する力が育成できるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○現代的な諸課題を、他分野・他教科と関連させて構成している。世界の諸地域等の学習で「持続可能な開発目標」を取り上げ、地球規模の課題として捉えることができるように工夫されている。主体的に課題に対して探究、解決する態度が養えるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の初めにある「みんなでチャレンジ」（28か所）、見開きページや単元のまとめに設けられている「見方・考え方コーナー」で、対話的な活動を通じて多様な意見に触れながら学習を進め、地理的事象に対する「見方・考え方」を働かせることができる工夫がされている。</li> </ul> |                |
| 資 料           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の各州の導入は自然や生活に関する写真やイラスト入りの州地図を掲載している。日本の各地方の導入部では各地方の「探究課題」に沿った写真を掲載し、資料から地域のイメージができるような工夫がされている。</li> <li>○「Dマークコンテンツ」や「二次元コード」により、他分野他教科と関連する情報が入手できるように工夫されている。また、つまずきを補う動画などのコンテンツも掲載されている。</li> </ul>  |                |
| 表記・表現         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○写真が大きく鮮明で、豊富に掲載されている。グラフの色使いは落ち着いた色調である。文化財や世界遺産などにマークがつけられていて、興味・関心が高まるように工夫されている。</li> <li>○見開き1ページの統一したレイアウトで配置されている。ゴシック体のふりがなや文字のサイズなども読みやすい工夫されている。</li> </ul>  |                |
| 総 括           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き1時間として、生徒の興味・関心を喚起する「導入資料」、学習のめあてを示す「学習課題」、丁寧でわかりやすい「本文」やそれを補完する「資料」、学習内容をまとめる「チェック」「トライ」の流れで構造化され、基礎的・基本的な知識・技能が定着しやすい工夫がされている。</li> <li>○各章のはじめに小学校で習った事項を掲載したり、他分野との関連を示したりすることで学習内容のつながりを意識できる工夫がされている。</li> </ul>   |                |

種目（ 社会 地理的分野 ）

|                     |  |                            |
|---------------------|--|----------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学社会 地理 地域にまなぶ</p>  | <p>17</p> <hr/> <p>教 出</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○難解な用語は巻末の「用語解説」で補足説明し、理解できるように配慮している。また、毎時間見開き右ページの「確認」で、節末では「学習のまとめと表現」で基礎的・基本的な知識が習得できるように工夫されている。</p> <p>○「地理の技」が8項目設けられ、資料やグラフの読み取り方などの技能を習得できるようになっている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○毎時間見開き右ページの「表現」が設けられ、言語活動が行えるように工夫されている。節末の「学習のまとめと表現」の「表現しよう」「意見を交換しよう」が設けられている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○章・節の導入ページに多数の写真などの資料が掲載されており、主体的に課題を解決しようとする態度を養うことができるように工夫されている。また、世界地誌の導入では、州ごとにSDGsの視点から学習する地球的課題を扱えるように工夫されている。</p> <p>&lt;社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせるための工夫&gt;</p> <p>○「地理の窓」（51か所）を設け、視点を広げる等の学習を深めることができるように配慮されている。地理的事象の背景や要因を人間の営みと関連付けて学習できるよう工夫されている。「読み解こう」や「Q」のコーナーが設けられ、地理的な見方・考え方が育まれるよう工夫されている。</p> |                            |
| <p>資 料</p>          | <p>○まなびリンク（7テーマ）が章や節の導入で設けられている。QRコードで様々な情報へすぐにアクセスすることができるため、生徒が様々な情報を主体的に収集できるように工夫されている。</p> <p>○「読み取ろう」では資料活用を中心とした読解力が身に付くように配慮している。「資料番号」や参照ページが本文中に表記してあり、対応して確認できるように配慮されている。</p>  |                            |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○判読しやすい配色やレイアウトなどのカラーユニバーサルデザインやUDフォントなど、文字や読みやすい改行などの表現の工夫を取り入れ見やすい紙面となっている。</p> <p>○写真や地図が大きく、豊富に掲載されている。グラフやイラスト、図も落ち着いた色調で大きくて見やすく、豊富に掲載されている。</p>  |                            |
| <p>総 括</p>          | <p>○見開き1時間として、生徒の興味・関心を引く「導入資料」、学習の見通しを立てる「学習課題」、丁寧でわかりやすい「本文」、学習内容をふりかえる「確認と表現」の流れで構造化され、基礎的・基本的な知識・技能が確実に定着する工夫がされている。</p> <p>○学習コラムや特設ページで今日的な課題を取り上げ、興味・関心を広げたり、社会の形成に参画する態度を養ったりできるよう配慮している。</p>  |                            |

種目（ 社会 地理的分野 ）

|                  |   |                   |
|------------------|---|-------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>社会科 中学生の地理<br/>世界の姿と日本の国土</p>  | <p>4 6<br/>帝国</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>                 ○用語の解説を側注に5 2項目設け、理解できるよう配慮している。毎時間見開き右ページに「確認しよう」が、節末や章末では「学んだことを確かめよう」が設けられ、基礎・基本の定着ができるよう工夫されている。<br/>                 ○「技能をみがく」が2 3項目設けられ、資料やグラフの読み取り方などの技能を習得できるようになっている。<br/>                 &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>                 ○見開き右ページに「説明しよう」を設け、毎時間言語活動が行えるようになっている。節・章末では「『地理的な見方・考え方』を働かせて説明しよう」が設けられ、順を追って思考力等が育成できるよう工夫されている。<br/>                 &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>                 ○SDGsに関連した「未来に向けて」（2 5か所）と実社会の人々の「声」（1 8か所）を設けることで、諸地域の生活文化を尊重しようとする態度を養うことができるように工夫されている。また、社会に対してどのように参画していくかを考えられるよう工夫されている。<br/>                 &lt;社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせるための工夫&gt;<br/>                 ○世界の諸地域と日本の諸地域の各章（節）末の「章（節）の学習を振り返ろう」では、「章（節）の問い」に対して「地理的な見方・考え方」を働かせて、地域の環境条件や地域間の結び付きなどを関連付けて考えることができるよう工夫されている。</p> |                   |
| <p>資 料</p>       | <p>○世界の各州や日本の各地方の導入部では探究課題に沿った写真やイラスト入りの地図が掲載され、学習のイメージを持てるような工夫がされている。また、生活に関する写真が掲載され、資料を見る視点が示されている。<br/>                 ○写真に「資料活用」の設問が設けられ、資料の読み取りができるように工夫されている。各章・節ごとの「二次元コード」により、本文と各資料に関連する動画で地域の姿を概観できるように工夫されている。</p>  |                   |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○文字はユニバーサルデザインフォントが使用されて読みやすくなっている。グラフは着目してほしい部分を太枠で囲ったり、線種を変えたりするなどして読み取りやすい工夫がされている。<br/>                 ○写真や地図が大きく、豊富に掲載されている。グラフの色使いも落ち着いた色調である。</p>  |                   |
| <p>総 括</p>       | <p>○見開き1時間として、生徒の興味・関心を引く「導入資料」、学習の見通しを立てる「学習課題」、丁寧でわかりやすい「本文」、学習内容をふりかえる「確認しよう」「説明しよう」の流れで構造化され、基礎的・基本的な知識・技能が確実に定着する工夫がされている。<br/>                 ○環境・防災・共生を主題とする題材を積極的に扱い、SDGsの意義への理解を涵養するように配慮されている。</p>   |                   |

種目（ 社会 地理的分野 ）

|                     |  |                             |
|---------------------|--|-----------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学校社会 地理的分野</p>   | <p>116</p> <hr/> <p>日 文</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○難解な用語は巻末の「用語解説」で補足説明し、理解できるよう配慮している。毎時間見開き右ページに「確認しよう」が、節末に「学習のまとめ」が設けられ、基礎的・基本的な知識が習得できるよう工夫されている。</p> <p>○「スキルUP」が31項目設けられ、資料やグラフの読み取り方などの技能を習得できるよう工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○「アクティビティ」「チャレンジ地理」が章末などに設けられ、シンキングツールを活用したまとめや議論などの活動によって、思考力・判断力・表現力を育成できるよう工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○世界の各州、日本の各地方を学習する際の導入部分で「クイズ」が設けられており、課題について主体的に解決しようとする態度を養うことができるよう工夫されている。章末には「ふりかえる」「アクティビティ」等で、互いのよさを生かして協働する力などが育めるように工夫されている。</p> <p>&lt;社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせるための工夫&gt;</p> <p>○「自由研究」や「地理+α」では今日的な課題の具体的事例を取り上げ、地域の環境条件や地域間の結び付きなど、多様な地理的事象に対する理解を深めることができる。見開きページに掲載の「見方・考え方」を活用することで、地理的な見方・考え方を働かせられるように工夫されている。</p> |                             |
| <p>資 料</p>          | <p>○世界の各州の導入部に探究課題に沿った写真とクイズを掲載して、興味・関心を高める工夫がされている。世界や日本の事象を多面的・多角的にとらえることができる教材が多く掲載されている。</p> <p>○資料の本文の重要語句に関連する資料の多くに「資料活用」の視点が記載されており、知識や技能、思考力・判断力・表現力等を身につけることができるよう工夫されている。</p>   |                             |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○単元カラーとインデックスの色を統一し、現在学習している位置を常に参照できるようになっているなど、図版の配色や体裁にいたるまで、ユニバーサルデザインに配慮した編修となっている。</p> <p>○写真や地図が大きく、豊富に掲載されている。イラストの説明も多く、わかりやすい。また、本時の学習課題も見やすい位置に掲載されている。</p>  |                             |
| <p>総 括</p>          | <p>○見開き1時間として、生徒の興味・関心を高める「導入資料」、学習の見通しを立てる「学習課題」、丁寧でわかりやすい「本文」、学習内容をふりかえる「確認」の流れで構造化され、基礎的・基本的な知識・技能が確実に定着するよう工夫されている。</p> <p>○小学校や他分野とのつながりがページ下に示されている。防災・減災への備えや自助・共助・公助の実践を具体化した内容が明記されている。</p>   |                             |

種目（ 社会 歴史的分野 ）

|                     |  |                           |
|---------------------|--|---------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>新しい社会 歴史</p>  | <p>2</p> <hr/> <p>東 書</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○知識や概念などについて、巻末の用語解説で補足説明がされ、確実な定着につなげやすい工夫がある。また、各章の終結部には「基礎・基本のまとめ」が設けられ、定着の確認と振り返りができるよう工夫されている。</p> <p>○資料の読み取り方や調べ学習を行う際の手法などを「スキル・アップ」で紹介し、その技能を活用するコーナーが設けられており、発達の段階に応じて定着できるよう工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○各単元の学習を、「探究課題」、「学習課題」、「探究のステップ」の3段階の問いで構造化し、細かいステップで課題を解決していくことで、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるよう工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○「みんなでチャレンジ」などの対話的な学習の場面を設けたり、歴史のまとめで学習内容を振り返り、持続可能な社会の実現に向けて構想したりすることで、積極的に社会参画し、他者と協働しながらよりよい社会を築こうとする意識と態度を養えるよう工夫されている。</p> <p>&lt;社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせる工夫&gt;</p> <p>○「見方・考え方コーナー」や「みんなでチャレンジ」、「導入の活動」や「まとめの活動」などに、歴史的な見方・考え方を働かせる場面が設けられており、より深く思考・判断できるよう工夫されている。</p> |                           |
| <p>資 料</p>          | <p>○Dマークでは、二次元コードなどによりインターネットを活用して地理や公民と関連する紙面や、他教科の紙面を確認することができ、生徒のつまずきを補うシミュレーションや動画などのコンテンツが掲載されている。</p> <p>○復元写真や想像図など、歴史を実感できる資料が豊富に掲載されている。また、資料を実物大で掲載したり、サイズを付したりして、具体的なイメージを持って学習できるよう工夫されている。</p>  |                           |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○UDフォントを使用している。見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。</p> <p>○色覚特性がある生徒にも見分けやすい色を使用するとともに、グラフや地図などでは、凡例を使用せずに図中に直接示したり、読み取りづらい破線や点線を減らしたりしている。</p>   |                           |
| <p>総 括</p>          | <p>○本文は見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「チェック&amp;トライ」の流れで構造化されている。キャラクターの吹き出しの内容により、生徒が主体的に学習できるよう工夫されている。</p> <p>○全体を5つの現代的な諸課題をテーマ（環境・エネルギー、人権・平和、伝統・文化、防災・安全、情報・技術）で構成し、学習できるように工夫がされている。</p>  |                           |

種目（ 社会 歴史的分野 ）

|                     |   |                            |
|---------------------|---|----------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学社会 歴史 未来をひらく</p>   | <p>17</p> <hr/> <p>教 出</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○本文の学習の流れに即して、歴史資料の読み解きを示唆する「読み解こう」や「Q」などの問いが設けられており、時代の特色を考察する学習活動を重視し、習得を図ることができるよう工夫されている。</p> <p>○写真・絵・地図・グラフ・文書などの多様な資料について、具体的な手がかりや問いかけをもとに取り組みなかで、資料を活用する技能が身につくよう工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○本文の学習ごとに「確認」「表現」が設けられ、学習したことをもとに「確認」では基礎的事項の確認に、「表現」では歴史的事象についての説明や話し合いなどの表現活動に、段階的に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」というページでは、これからの社会を築いていくために自分たちに何ができるのかを考察、構想し、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようになっている。</p> <p>&lt;社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせる工夫&gt;</p> <p>○「歴史にアプローチ」で、小学校で活用した「社会科の見方・考え方」を振り返り、中学校の歴史学習で自覚的に見方・考え方を働かせるための手法を学ぶことができるよう工夫されている。</p> |                            |
| <p>資 料</p>          | <p>○興味・関心を高める写真・絵などの資料が多く、かつ効果的に配置されており、本文中には、資料との関連を示す番号や、前出・後出箇所との関連を示す参照ページも挿入されている。</p> <p>○各時代の文化について、多くの資料で特色をとらえやすいよう工夫されている。国宝や重要文化財、世界遺産にはマークが付され、日本の伝統文化とともに、世界の多様な文化への理解がしやすいよう工夫されている。</p>  |                            |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○難解な用語や補足説明の必要な箇所には、側注や「◆解説」による説明が設けられている。</p> <p>○配色、レイアウト、表現方法、文字などにUDの視点が入り入れられている。ページ上部に学習の導入や中心となる資料が配置されており、重要事項が分かりやすいよう工夫されている。</p>  |                            |
| <p>総 括</p>          | <p>○全体を7つの章に分け、節のまとめや単元の配列を工夫することで、各時代の特色をとらえ、歴史の大きな流れをつかみやすいよう構成が工夫されている。</p> <p>○導入ページの「学習を始めよう」では、その時代を象徴するような資料とそれに関わる問いを示し、これから学習する時代（章）を概観するとともに、見通しをもって学習を進められるよう工夫されている。</p>  |                            |

種目（ 社会 歴史的分野 ）

|                  |   |                  |
|------------------|---|------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>社会科 中学生の歴史<br/>日本の歩みと世界の動き</p>   | <p>46<br/>帝国</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>                 ○紙面全体にわたるワイドなイラスト地図を駆使し、外国の歴史や文化に興味・関心をもてるよう工夫されている。世界の歴史の画期となった国際情勢の動きに対する理解が深まるよう工夫されている。<br/>                 ○史料読解、情報収集の力を養うことができる「技能をみがく」コーナーが設けられている。各ページの写真・統計類に「資料活用」の問いが設定され、習得した技能を活用するよう工夫がされている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>                 ○「章の問い」は、時代の特色を論理的に説明するためのヒントになるよう工夫されている。「章の学習を振り返ろう」では、3段階のステップを設け、時代の特色の説明ができるよう工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>                 ○節冒頭の「タイムトラベル」では大きなイラストから時代を概観でき、時代の比較や疑問点の整理など、学びに向かう意欲を喚起するよう工夫されている。「多面的・多角的に考えてみよう」では、社会の多様性を見つめ、公共の精神に基づく正義感や責任感を培えるよう工夫されている。</p> <p>&lt;社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせる工夫&gt;<br/>                 ○「歴史的な見方・考え方を働かせよう」で「見方・考え方」を概観でき、「章の学習を振り返ろう」の右ページでは、各時代の特色に対して「見方・考え方」を働かせ論理的に説明する力をつけるよう工夫されている。</p> |                  |
| <p>資 料</p>       | <p>○各時代の文化史は1単元4ページ構成で、文化財などの写真が豊富に掲載されている。中央とは異なる地域の姿を描いたコラム「地域史」が18か所設けられ、日本の伝統文化への深い理解につながるよう工夫されている。<br/>                 ○紙面全体にわたるワイドなイラスト地図が、歴史の転換点となる時代に設けられており、イラストを駆使して外国の歴史や文化に興味・関心が持てるよう工夫されている。</p>  |                  |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○本文などにUDフォントが使用され、見やすく読み間違いがないよう工夫されている。<br/>                 ○見開きにあるデザインや、グラフ・地図といった資料において、色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使うよう配慮されている。折れ線グラフなどは、線種を変えたりするなど工夫されている。</p>  |                  |
| <p>総 括</p>       | <p>○「タイムトラベル」による導入の工夫、単元を貫く問いの設定による見通し、問いに対する受け皿として設定されている振り返りという流れで構成され、生徒が日々の学習に見通しを持ち、振り返れるよう工夫されている。<br/>                 ○歴史的な見方・考え方や、多面的・多角的に考察する機会が重視されており、高等学校で新設される科目「歴史総合」にも通底する力であり、高等学校への円滑な接続を期待できる構成となっている。</p>   |                  |



種目（ 社会 歴史的分野 ）

|                     |  |                           |
|---------------------|--|---------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学歴史 日本と世界</p>  | <p>81</p> <hr/> <p>山川</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○難解な用語の理解ができるよう「用語解説」を付し工夫している。テーマ全体の叙述を簡潔にし、「歴史へのアプローチ」では詳細に記述することで幅広い知識と教養を身に付けられるよう構成を工夫している。</p> <p>○資料が多く取り入れられ、歴史学習における資料の重要性を感じる構成となっている。史料、図版、地図、グラフなどに発問が付され、見るべき視点が明確に示され、資料活用の技能を育むよう工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○各単元の「ステップアップ」は、学習内容を深く考察し自分の考えをまとめたり協働して考えを深めたりするよう工夫されている。「歴史を考えよう」では資料から課題を話し合い、考察しながら学ぶよう工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○「地域からのアプローチ」では、身の回りの生活や身近な地域と歴史との関連を結びつけるための発問が設定されている。地域を通した歴史学習の視点や現代に生きる私たちと各時代のつながりを感じ、主体的に課題を追究できるよう工夫されている。</p> <p>&lt;社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせる工夫&gt;</p> <p>○各章等の学習の視点が示され、ものごとの差異や共通点に気づき歴史的な見方に気づけるよう工夫されている。本文等により、テーマの事象の時代背景や諸課題がどのように解決されたかを学べるよう工夫されている。</p> |                           |
| <p>資 料</p>          | <p>○章の巻頭では、日本史と世界史の年代を上下に分けて示す帯年表が付され、視覚的に流れをつかめるようになっている。世界を地図・イラストで紹介するページは、各時代を概観し、視覚的に理解できるよう工夫されている。</p> <p>○図版、地図、グラフなどに解説や発問が付され、見るべき視点が明確に示されている。二次元コードを付し、博物館などのHPや動画を参考に、課題を追究した学習ができるよう工夫されている。</p>   |                           |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○地図・グラフがUDに配慮されている。見開きの見出し、資料名等は太字で表記されている。</p> <p>○見開きのページに学習課題と課題追究のための「ステップアップ」の発問があり、見通しをもたせるよう工夫されている。資料には、見開きで通し番号があり、本文の関連箇所にも同じ番号がある。</p>   |                           |
| <p>総 括</p>          | <p>○各テーマ冒頭に、テーマを理解するための発問と、本文を読むための視点や注目すべき点に示唆を与える工夫がなされている。また、「歴史へのアプローチ」で深く掘り下げて解説されるなどの配慮がある。</p> <p>○「流れをつかむ」「歴史を考える」「世界史を知る」という3つのポイントで全体が構成されている。高等学校につながるように構成等が工夫されている。</p>   |                           |

種目（ 社会 歴史的分野 ）

|                     |  |                             |
|---------------------|--|-----------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学社会 歴史的分野</p>  | <p>116</p> <hr/> <p>日 文</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○見開きで1単位時間の学習課題が設定され、見通しを持って学習できるように構成されている。「基本用語」では歴史の理解に役立つ用語の解説が記述され工夫されている。</p> <p>○章末のページでは「学習の整理と活用」として、年表や地図を活用して学習の振り返りができるように工夫されている。習得した知識を関連させて時代の特色をとらえる課題学習が示されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○歴史を学ぶ面白さを体験できる「チャレンジ歴史」、時代の特色を考えることができる「アクティビティ」という2つの特設ページがあり、歴史について考え、判断し、表現する学習をできるように工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○「先人に学ぶ」「地域に学ぶ」「でかけよう地域調べ」等で地域や先人の知恵に学ぶことができる。現代の諸課題の振り返りに活用できる「テーマ別さくいん」、災害・政治参加・世界平和について考える学習課題が示され、よりよい未来の創造について考えられるよう工夫されている。</p> <p>&lt;社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせる工夫&gt;</p> <p>○「私たちと歴史」で小学校の学習を振り返りながら歴史的な見方・考え方を学び、見方・考え方を念頭に置いて学習できる構成になっている。各ページで課題解決の手がかりとなる「見方・考え方」の例が示されている。</p> |                             |
| <p>資 料</p>          | <p>○各時代の文化史は写真等が多く、文化財が大きく掲載されている。時代像を具体的にイメージできる図版が大きく掲載され、歴史の楽しさや面白さを体験できるよう工夫されている。</p> <p>○各編・章の導入ページにおける世界地図の掲載、本文ページにおける世界の歴史の充実等により、広い視野から日本の歴史を理解できるよう工夫されている。</p>   |                             |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○ふりがなは読みやすいゴシック体で表記されている。図版の配色や体裁にいたるまで、UDに配慮されている。</p> <p>○写真等の図版が大きく示され、生徒の興味・関心が高まるように配慮されている。左右のスペースにグラフや各種資料が掲載され、本文内容についての補完がされている。</p>   |                             |
| <p>総 括</p>          | <p>○見開き2ページで1単位時間の構成で、「学習課題」で何を学ぶのかが明確に示され、学習の視点や方法が定まるよう配慮されている。学習内容は構造化と焦点化が図られ、時代の特色をとらえられるよう配慮されている。</p> <p>○命の尊さや伝統・文化などをテーマとした特設ページやコラム（「先人に学ぶ」「歴史を掘り下げる」）を設置して、道徳科との関連を図るよう工夫されている。</p>   |                             |

種目（ 社会 歴史的分野 ）

|                     |  |                       |
|---------------------|--|-----------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>[最新] 新しい日本の歴史</p>   | <p>227</p> <p>育鵬社</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○章の初めに「鳥の目」から歴史の流れを概観、「虫の目」から時代の特色をつかめるようなページ構成となっており、見通しを持って学習できるように工夫されている。</p> <p>○各章末の「『私の歴史博物館』をデザインしてみよう」で、各時代の特色を深くとらえたり、諸資料から様々な情報を効果的に調べたりして、それらをまとめる技能を楽しく身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○見開きの鉛筆マーク、各章の「学習のまとめ」、巻末の「歴史学習のまとめ」で、学習内容を活用して各時代を大観したり、時代の特色を多面的・多角的に考察し表現したりする活動に結び付けるよう工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○序章「歴史探検！歴史の流れと先人の活躍」では、小学校で学習した歴史上の人物の似顔絵を活用し、楽しく生徒が歴史学習を始められるよう工夫されている。「歴史のターニングポイント」では、各時代を代表する出来事について、資料を基に考えて、議論することができるよう工夫されている。</p> <p>&lt;社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせる工夫&gt;</p> <p>○各時代には、同時代の外国の動きを詳しく紹介した見開きページが設けられ、日本の歴史や伝統と文化に対して複眼的な見方ができるよう工夫されている。</p> |                       |
| <p>資 料</p>          | <p>○「歴史ビュー」「歴史ズームイン」「人物クローズアップ」「なでしこ日本史」などのコラムが多く用意され、多面的・多角的に歴史学習ができるよう工夫されている。</p> <p>○「このころ世界は」で同時代の外国の動きが詳しく掲載されたり、「地域の歴史を調べてみよう」「歴史ビュー」などで、身近な地域の歴史や各地域の文化遺産が数多く掲載されたり工夫されている。</p>  |                       |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○重要語句、重要人物は本文・さくいんともに太字のゴシック体で表記され、重要事項が分かりやすくなるよう工夫されている。UDに配慮されている。</p> <p>○図版や写真が大きく掲載され、図版資料には「図版番号」が付されている。判別しやすい色の使用や表現の工夫がなされている。ふりがなにゴシック体が用いられ、誰にとっても見やすい配慮がなされている。</p>  |                       |
| <p>総 括</p>          | <p>○問題解決型学習の教材配列になるように配慮されており、主体的・対話的で深い学びを実現できるように構成されている。また、「なでしこ日本史」では、女性の活躍に注目し女性の生き方を詳しく紹介している</p> <p>○歴史の大きな流れを理解することができる紙面構成となっており、基礎的・基本的な知識の習得をはかりやすくなっている。多様な資料と紙面構成で多面的・多角的に考察できるよう工夫されている。</p>   |                       |

種目（ 社会 公民的分野 ）

|                     |   |                           |
|---------------------|---|---------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>新しい社会 公民</p>   | <p>2</p> <hr/> <p>東 書</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○難解な用語は巻末の「用語解説」で補足説明し、理解できるよう工夫している。また、毎時間見開き右ページ下の「チェック」で、章末では「基礎・基本のまとめ」で基礎的・基本的な知識が習得できるよう工夫されている。</p> <p>○「スキルアップ」が9項目設けられ、資料やグラフの読み取り方などの技能を習得できるよう工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○言語活動が多く実施できるように、「みんなでチャレンジ」「考える」や見開き右ページ下に「トライ」が設定されている。また、各章のはじめとまとめの話し合い活動（ディスカッションやディベート等）の設定により、学習したことをさらに探究できるよう工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○「もっと地理・歴史・公民」では、同一の写真・グラフ・地図を3分野共通で掲載することで、現代社会に見られる諸事象を、各分野の視点から考察できるようになっているため、主体的に社会に関わろうとする態度が養えるよう工夫されている。</p> <p>&lt;現代社会の見方・考え方を働かせるための工夫&gt;</p> <p>○見方・考え方（60か所）設けられており、現代社会における諸事象に対してより深い思考を促せるよう工夫されている。また、諸課題の解決に向けてよりよい判断ができるように工夫されている。</p> |                           |
| <p>資 料</p>          | <p>○選挙の単元で高校生の投票を掲載したり、中学生や世界の子供の写真を多く資料として掲載したりするなど、選挙権年齢の引き下げを意識した資料が多く工夫されている。</p> <p>○ウェビングマップやマトリックスなど、多様なツールが掲載されており、グラフや写真などの資料や本文で学習した内容を整理し、主体的に思考・判断することができるように工夫されている。</p>   |                           |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○写真が大きく鮮明で見やすく豊富に掲載されている。グラフの色使いも落ち着いた色調である。文化財や世界遺産などにマークがつけられていて、興味を引くように工夫されている。</p> <p>○地図やグラフではカラーバリアフリーに配慮し、ゴシック体のふりがなや文字のサイズなども読みやすい工夫がされている。</p>   |                           |
| <p>総 括</p>          | <p>○見開き1時間として、生徒の興味・関心を喚起する「導入資料」、めあてを示す「学習課題」、わかりやすい「本文」やそれを補完する豊富な「資料」、学習内容をまとめる「チェック」「トライ」の流れで構造化されている。</p> <p>○「地球社会と私たち」では国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」を取り上げたり、「もっと公民」で、東日本大震災の事例を提示したりするなど、現代的な諸課題の解決のための意識と態度を育てるよう工夫されている。</p>   |                           |

種目（ 社会 公民的分野 ）

|                     |  |                            |
|---------------------|--|----------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学社会 公民 とともに生きる</p>   | <p>17</p> <hr/> <p>教 出</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○難解な用語は巻末の「用語解説」で補足説明し、理解できるように配慮している。また、毎時間見開き右ページの「確認」で、節末では「学習のまとめと表現」で基礎的・基本的な知識が習得できるよう工夫されている。</p> <p>○「公民の技」のコラムが設けられ、資料の読み取りなどの技能を習得できるよう工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○「言葉で伝え合おう」ではディベート等の表現活動を促すテーマが設けられている。学習ごとに学習課題と対応させた「表現」が設定され、社会的事象についての説明や話し合いをしたり、「現代社会の見方・考え方」を意識しながら考え、表現する課題を取り入れたりするなど、工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○終章の「私たちが未来の社会を築く」では、「持続可能な開発目標（SDGs）」と自己との関わりから、私の提案「自分を変える，社会を変える」を作成する活動に取り組み、持続可能な多文化共生社会の形成に参画しようとする態度を養えるよう工夫されている。</p> <p>&lt;現代社会の見方・考え方を働かせるための工夫&gt;</p> <p>○「公民の窓」で視点を変えたり視点を広げて学習を深めたりすることができ、「言葉で伝え合おう」では、多様な視点から物事を判断することができるよう工夫されている。</p> |                            |
| <p>資 料</p>          | <p>○他国の憲法が掲載され、日本国憲法の特徴を理解しやすくなっている。地方自治の単元は、全国の地方自治体の資料が豊富に掲載され、自分の住む自治体との比較などができ、課題解決の参考にできるよう工夫されている。</p> <p>○「資料番号」や参照ページが本文中に表記してあり、対応して確認できるように配慮されている。「読み取ろう」では資料活用を中心とした読解力が身に付くよう工夫されている。</p>   |                            |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○写真や地図が大きく、豊富に掲載されている。グラフやイラスト、図も落ち着いた色調で大きくて見やすく、多く掲載されている。見開きページの中で太字も多くするなど工夫されている。</p> <p>○判読しやすい配色やレイアウトなどのカラーユニバーサルデザインやUDフォントなど文字の工夫で見やすい紙面となっている。</p>   |                            |
| <p>総 括</p>          | <p>○見開き1時間として、興味を引く「導入資料」、見通しを立てる「学習課題」、わかりやすい「本文」、学習内容を振り返る「確認と表現」の流れで構造化され、基礎的・基本的な知識・技能が確実に定着するよう工夫されている。</p> <p>○「私の提案『自分を変える，社会を変える』をつくろう」の学習など、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う視点が強調されている。</p>   |                            |

種目（ 社会 公民的分野 ）

|                  |   |                  |
|------------------|---|------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>社会科 中学生の公民<br/>よりよい社会を目指して</p>   | <p>46<br/>帝国</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>                 ○用語の解説を側注に40項目設けて、理解しやすいよう工夫されている。また、毎時間見開き右ページに「確認しよう」が、節末や章末では「学んだことを確かめよう」が設けられるなど、工夫がされている。<br/>                 ○「技能をみがく」が10項目設けられ、意見をまとめる方法や話し合いの進め方の技能などを習得できるようになっている。<br/>                 &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>                 ○見開き右ページには「説明しよう」が設けられ、毎時間言語活動が行えるよう工夫されている。「アクティブ公民」では身近な話題で話し合い活動が設定されている。章末では『地理的な見方・考え方』を働かせて説明しよう」が設けられ、思考力等が育成されるよう工夫されている。<br/>                 &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>                 ○部や章の冒頭に、紙面全体に渡る大きなイラストで社会の全体像を概観できる「学習の前に」では、実生活に即した導入が設けられており、現代社会における諸課題に主体的に関わろうとする態度を養えるよう工夫されている。読み解きさせる内容は小学校の内容と関連があり工夫されている。<br/>                 &lt;現代社会の見方・考え方を働かせるための工夫&gt;<br/>                 ○持続可能な開発目標（SDGs）に関連した「未来に向けて」と現代社会の課題に対する「Yes/No」では、様々な立場から社会的事象をとらえることができるよう工夫されている。</p> |                  |
| <p>資 料</p>       | <p>○マンガやイラストを用いて具体的な例がわかりやすいようになっている。戦前などの古い写真資料も掲載されている。また、選挙の単元では高校生の投票を掲載し、選挙権年齢の引き下げを意識できるよう工夫されている。<br/>                 ○「資料番号」や参照ページが本文中に表記してあり、対応して確認できるように配慮されている。また、本文中に「～条」と日本国憲法の条文との対応が記載されている。</p>  |                  |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○文字はUDフォントが使用されて読みやすくなっている。グラフは着目してほしい部分を太枠で囲ったり、線種を変えたりするなどして読み取りやすい工夫がされている。<br/>                 ○写真や地図が大きく、豊富に掲載されている。また、グラフでは線の太さや囲み方にも工夫がされており、色の使い方も落ち着いた色調である。</p>   |                  |
| <p>総 括</p>       | <p>○見開き1時間として、興味を引く「導入資料」、学習の見通しを立てる「学習課題」、わかりやすい「本文」、学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」の流れで構造化され、知識・技能が定着するよう工夫されている。<br/>                 ○人権や環境等の現代社会の課題を扱い、持続可能な開発目標（SDGs）の意義への理解を涵養するとともに、社会参画の意義を捉えられるよう工夫されている。</p>   |                  |

種目（ 社会 公民的分野 ）

|                     |   |                             |
|---------------------|---|-----------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学社会 公民的分野</p>   | <p>116</p> <hr/> <p>日 文</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○難解な用語は巻末の「用語解説」で補足説明し、理解できるように配慮している。毎時間見開き右ページに「確認しよう」が、節末に「学習のまとめ」が設けられ、基礎的・基本的な知識が習得できるよう工夫されている。</p> <p>○「情報スキルアップ」が3項目設けられ、情報リテラシーなどを育成できるよう工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○「アクティビティ」「チャレンジ公民」が章末などに設けられ、シンキングツールを活用したまとめや議論などの活動によって、思考力・判断力・表現力を育成できるよう工夫されている。「資料活用」では資料を読み取り協議できるように工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○本文の内容や資料を更に深めたり発展させたりすることができる動画教材やワークシートが、WEBページに公開されている。これはデジタルマークから視聴やダウンロードすることができるようにされており、社会的事象について主体的に解決する態度を養えるよう工夫されている。</p> <p>&lt;現代社会の見方・考え方を働かせるための工夫&gt;</p> <p>○各編末にシンキングツールが設けられ、多様な視点から選択・判断することができるよう工夫されている。見方・考え方を働かせることができるように問いや活動事例を提示した「アクティビティ」が配置されている。</p> |                             |
| <p>資 料</p>          | <p>○マンガやイラストを用いて具体例がわかりやすいようになっている。地方自治の単元で、全国のさまざまな地方自治体の資料が豊富に掲載され、自分の住む自治体との比較や課題解決の参考にできるよう工夫されている。</p> <p>○「資料番号」や参照ページが本文中に表記してあり、対応して確認できるように配慮されている。国々の位置などをつかむことができる世界地図、現代史年表が設けられている。</p>  |                             |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○ゴシック体のふりがなによって小さな文字も読みやすくしている。グラフ・地図等の図版は、カラーユニバーサルデザインに配慮した配色や処理を施している。</p> <p>○写真や地図が大きく、豊富に掲載されている。イラストの説明も多く、本時の学習課題も見やすい位置に掲載されている。</p>  |                             |
| <p>総 括</p>          | <p>○見開き1時間として、興味を引く「導入資料」、学習の見通しを立てる「学習課題」、わかりやすい「本文」、学習内容を振り返る「確認」の流れで構造化され、知識・技能が確実に定着するよう工夫されている。</p> <p>○コラムやコーナーを通じて、「法教育」「主権者教育」「消費者教育」「キャリア教育」など自らの人生を切り開くために必要な教材の充実が図られ工夫されている。</p>  |                             |

種目（ 社会 公民的分野 ）

|                     |   |                             |
|---------------------|---|-----------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>新しい公民教科書</p>   | <p>225</p> <hr/> <p>自由社</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○本文の側注が多く、難解な用語の確認が容易にできるようになっている。各章末の「学習のまとめと発展」で基礎的・基本的な知識の習得ができるよう工夫されている。</p> <p>○「アクティブに深めよう」で意見を見やすくまとめたり、関連性がわかるようにまとめたりする技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○「やってみよう」で資料を基に話し合ったり考えたりする活動が設定されている。各章の最後に学習を発展させるためにテーマを選択・考察し、表現する「学習の発展」や現在社会の見方・考え方を働かせ考察する「アクティブに深めよう」など、思考力等を高められるよう工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○学習内容を明確にするために設けられている「ここがポイント」では、現代の日本の諸課題が豊富に掲載され、現代社会に主体的に関わろうとする態度が養えるよう工夫されている。また、学習内容を深く理解するために関連する単元の近くに「もっと知りたい」というページが設定されている。</p> <p>&lt;現代社会の見方・考え方を働かせるための工夫&gt;</p> <p>○学習課題が、多様な視点から考えられるよう工夫されている。また、法や政治の単元での「ミニ知識」では、学習が深まるような内容となっており、課題解決のために様々な視点から考えられるよう工夫されている。</p> |                             |
| <p>資 料</p>          | <p>○学習課題と関連する資料は大きく見やすく掲載されている。憲法や政治の単元で外国の資料を取り上げたり、地方自治の単元でさまざまな自治体に関する資料を掲載したりするなど、多岐にわたる資料を掲載している。</p> <p>○学習内容の理解が深まるように、見開きには「ミニ知識」というコラムを設けている。「資料番号」や参照ページが本文中に表記してあり、対応して確認できるよう工夫されている。</p>   |                             |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○写真や地図が大きく、豊富に掲載されている。イラストの説明も多く、わかりやすい。また、本時の学習課題も見やすい位置に掲載されている。側注も多くわかりやすい。</p> <p>○本文の文字が大きくて見やすく、ゴシック体の太字も多いため重要事項もわかりやすい。</p>  |                             |
| <p>総 括</p>          | <p>○見開き1時間として、興味を引く「導入資料」、見通しを立てる「学習課題」、わかりやすい「本文」、学習のポイントをまとめた「ここがポイント」の流れで構造化され、知識・技能が確実に定着するよう工夫されている。</p> <p>○「もっと知りたい」などのコラムや特設ページが豊富で、全体的に生徒が興味・関心を持ちながら学習できるよう工夫されている。終了のディベート等、学習内容を深めるような工夫がされている。</p>   |                             |



種目（ 社会 公民的分野 ）

|                     |   |                       |
|---------------------|---|-----------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>[最新] 新しいみんなの公民</p>   | <p>227</p> <p>育鵬社</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○難解な用語は巻末の「用語解説」で補足説明し、理解できるよう配慮している。章末に「学習のまとめ」が設けられ、基礎的・基本的な知識の習得ができる工夫がされている。</p> <p>○「スキルアップ」「TRY!」で公民の基礎的な技能や資料活用の技能を習得できるよう工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○見開き右ページ下にある「鉛筆マーク」は学習内容を自分の言葉でまとめる活動ができるよう工夫されている。章末の「学習のまとめ」の「~のこれから」「やってみよう」は、現在社会の見方・考え方を働かせ討論や協働的な活動を通して学習を深められるよう工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○各章の「入り口」では、身近に感じられる教材が取り上げられ、自分事として現代社会をとらえられるよう工夫されている。また、現代社会の諸課題の解決に向けて構想したり、未来の姿を構想したりできるよう工夫され、学びに向かう力や人間性を養えるようになっている。</p> <p>&lt;現代社会の見方・考え方を働かせるための工夫&gt;</p> <p>○現代社会の見方・考え方の基礎である対立と合意、効率と公正の視点を取り入れた内容が多数設けられており、「学習を深めよう」では、多様な視点から課題を追及、解決することができるよう工夫されている。</p> |                       |
| <p>資 料</p>          | <p>○各章のはじめに身近な話題の資料を掲載し、学習内容のイメージをもたせる配慮がされている。「資料番号」や参照ページが本文中に表記してあり、対応して確認できるよう工夫されている。</p> <p>○図版や写等の資料が大きく掲載されており、新聞やニュースなどの身近な写真なども資料として取り上げている。「TRY!」では、学習を発展させるための視点が示されている。</p>  |                       |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○写真や地図が大きく、豊富に掲載されている。「学習を深めよう」では、発展的な資料が提示され、学習内容を深められるよう工夫されている。本時の学習課題も見やすい位置に掲載されている。</p> <p>○カラーバリアフリーに配慮した色調や、ゴシック体のふりがなにより、見やすいよう工夫されている。</p>   |                       |
| <p>総 括</p>          | <p>○見開き1時間として、興味を引く「導入資料」、学習の見通しを立てる「学習課題」、わかりやすい「本文」、学習内容を振り返る「まとめ」の流れで構造化され、知識・技能が確実に定着するよう工夫されている。</p> <p>○「他人事」を「自分事」としてとらえる態度の育成に重きを置き、興味・関心を引く資料・コラムが豊富に掲載されている。「やってみよう」では、様々なテーマによるディベート等の活動が行えるよう工夫されている。</p>   |                       |

種目（地図）

|                     |   |                          |
|---------------------|---|--------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>新しい社会 地図</p>   | <p>2</p> <hr/> <p>東書</p> |
| <p>内容</p>           | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○日本・世界の自然、産業、歴史など、様々な情報が掲載されており、空間認識をともなった幅広い知識や教養が身につくよう工夫されている。世界の主題、地球的課題、日本の中核となる事象を深められる複数の図を関連させ読み取る問いで、見方・考え方を習得できるよう工夫されている。</p> <p>○地図帳の基本的な見方・使い方を解説したページや、実際の地形図を掲載して、作業を通して読図技能が身につくよう工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○作業コーナー「地図活用」において、生徒自らが世界の諸課題について考え、よりよいあり方について検討したり、他の生徒と話し合ったり、協働して取り組めるような課題や作業が提示され工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○方位、地図記号、縮尺、索引の使い方などが巻頭に掲載されており、主体的に学習できるよう配慮されている。地図から読み取る学習活動や言語活動を促すコーナー「地図活用」が自学自習に役立つよう配置されている。</p> <p>&lt;他分野との接続や関連を図るための工夫&gt;</p> <p>○現代社会が直面する課題（少子高齢化・エネルギー問題など）についての資料を掲載し、社会参画への意識が高められるよう工夫されている。他教科との連携も図られている（国名の欧文表記、地震の震源とプレートが確認できる資料図など）。</p> |                          |
| <p>資料</p>           | <p>○世界の資料図は、国や州ごとに特色が比較しやすいように同縮尺で掲載されており、主題や課題を読み取りやすいよう工夫されている。</p> <p>○日本地図は土地利用表現と等高段彩表現が併用され、地域の様子と人々のくらしがわかりやすいように掲載されている。</p> <p>○自然災害・防災への意識を高められるように15万分の1の拡大都市圏図や、日本の各地方資料図には防災をテーマとする資料が掲載されている。</p>   |                          |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○ユニバーサルデザインフォントを使用しており、さらに地図ページ中の国名・都道府県名の赤文字には、白色で縁取りがされている。</p> <p>○カラーユニバーサルデザインに配慮し、色数が多くなる場合には地紋を入れるなど色の識別がしやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○都道府県（庁所在地）名を手話で表すコーナーを設け、特別支援教育への配慮がなされている。</p>   |                          |
| <p>総括</p>           | <p>○学習指導要領（地理的分野）に合わせて、世界は州ごと、日本は地方ごとに地図・資料が構成されている。資料は地域の特色が偏らずに理解できるよう、多角的に題材が選定されている。また、視覚的に捉えやすい鳥瞰表現を多用し、内容が焦点化され、理解しやすくなっている。</p> <p>○世界の州、日本の地方はいずれも、それぞれの地域の特色を具体的に読み取れるよう「一般図」→「資料図」という配列で構成されている。</p>  |                          |

種目（地図）

|                     |   |                           |
|---------------------|---|---------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学校社会地図</p>  | <p>46</p> <hr/> <p>帝国</p> |
| <p>内容</p>           | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○テーマごとに資料を参照できる「資料さくいん」が設けられており、課題解決的な学習で、効果的に資料が活用できるよう工夫されている。また、探究課題に沿った学習する際に活用できる資料を取り上げ、課題解決的な学習に主体的に取り組みやすいように配慮されている。</p> <p>○世界の各州、日本の各地方の概観に役立つ地形や気候、土地利用などの主題図のページが設けられ、基礎的・基本的な知識を確実に習得できる。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○資料の読み取りのポイントや見方・考え方を示した中学生等のキャラクターの吹き出しが設けられており、資料の理解を促し、考察を深められるよう工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○巻頭にSDGsや、国際社会のさまざまな問題の資料を豊富に取り上げた特集ページが設けられ、現代社会の諸課題の理解を促し、自分にできることを実践しようとする資質・能力を養えるよう工夫されている。</p> <p>&lt;他分野との接続や関連を図るための工夫&gt;</p> <p>○地理的分野の教科書の図版との連携を図る一方で、歴史的分野、公民的分野の学習とも連携したページや資料が設けられており、社会的事象を多面的・多角的に考察できるよう工夫されている。国や主要都市名等の欧文表記を英語科で活用するなど他教科との連携が図れるよう工夫されている。</p> |                           |
| <p>資料</p>           | <p>○ご当地キャラクターを紹介するページや、オリンピック・パラリンピックの特集ページ、サッカーワールドカップの開催国の地図を掲載したページなど、生徒の関心が高まる身近なテーマの資料が掲載されている。</p> <p>○世界の州、日本の地方ごとに基本資料が設けられており、土地利用や断面図、降水量など、教科書での学習を補完する資料を含め、様々な資料を参照しやすいよう工夫されている。</p>  |                           |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○一般図や資料に明るい色づかいを採用しており、色覚特性がある生徒にも、区別しやすく読み取りやすい配色になっている。</p> <p>○UDフォントによって文字の視認性を向上させている。地図は等高段彩表現にレリーフ（陰影）表現を合わせ立体感があり、地形を捉えやすい。</p> <p>○世界の一般図では、基本的な情報に加え、地域の特徴的な「注目したい記号」が示されており、地域の特色をとらえやすくしている。</p>   |                           |
| <p>総括</p>           | <p>○地理的分野の学習の流れに沿って、世界の一般図と資料、日本の一般図と資料、統計と索引の三つのまとまりで構成されている。世界と日本の資料は、全体の資料と各州・地方の資料で構成され、地理的分野だけでなく、歴史的分野や公民的分野を補完する資料が掲載されている。</p> <p>○社会科の課題解決的な学習を深められるように、地図をはじめ、グラフ・写真などの資料がバランスよく掲載されている。</p>  |                           |

種目（ 数 学 ）

|                  |  |                  |
|------------------|--|------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>新しい数学</p>   | <p>2<br/>東 書</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>○問題解決的な学習を重視して、その質を高め、確かな「知識・技能」が身に付くような構成になっている。全国学力調査や各自治体の学力調査のエビデンスに基づき、生徒のつまずきに対応するための工夫が見られる。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>○「深い学びのページ」や全国学力調査に対応した活用の問題があり、「事柄や事実」、「方法や手順」、「理由」を説明する記述式問題が豊富に取り上げられ、思考力・判断力・表現力を養うための工夫が見られる。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>○実社会で使われているデータを活用し、数学のよさや必要性がわかる。「学びを振り返ろう」、「学びをひろげよう」という項目で学びを振り返る活動があり、次の学びに向かう意欲を高めることができるようになっている。</p> <p>&lt;数学的活動の楽しさや数学のよさを実感させるための工夫&gt;<br/>○問題解決の過程を重視した「深い学び」を設定し、主体的な学びを促す場面提示や発問を取り入れている。実社会での活用例を紹介し、数学とのつながりが実感できるよう工夫され、他教科との連携した題材も掲載している。</p> |                  |
| <p>資 料</p>       | <p>○日常生活や社会の事象から問題を見出し解決するために、生徒が興味をもって取り組める場面がイラストや写真により提示されている。<br/>○図や表から必要な情報を取り出す問題が取り上げられている。<br/>○現代的な諸課題の視点から題材を選定している。<br/>○「持続可能な開発目標（SDGs）」に関連した題材を扱っている。<br/>○データ活用力を学ぶことができる教材やグラフが用意されている。</p>   |                  |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○文節改行を取り入れ、例や問に罫線を入れてまとまりを見やすくしている。<br/>○色数を減らし、余白を生かしたシンプルデザインが採用されている。<br/>○カラーユニバーサルデザインの視点で編集されている。<br/>○素材や場面は、社会的な差別を助長することのないように配慮されている。<br/>○デジタル化によりタブレット上で使用できるようにレイアウトされている。</p>   |                  |
| <p>総 括</p>       | <p>○単元の導入では生徒が考えたい課題を提示し、作業的な活動に取り組めるようにワークシート形式で紙面が構成されている。<br/>○問題発見・解決の過程を重視した数学的活動を行う「深い学び」を全ての章に設定し、対話を通して考えを深める授業が展開できるようにしている。<br/>○関数のグラフ・作図などは直接書き込みができるようにしている。<br/>○デジタルコンテンツを利用できるようにQRコードが掲載されている。</p>  |                  |

種目（ 数 学 ）

|                  |   |                  |
|------------------|---|------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>数学の世界</p>  | <p>4<br/>大日本</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>○活動・例・例題を適切に配置し、例・例題で学ぶことを明確にしている。新しく学んだ事項は、「たしかめ」と「Q」で身に付け、豊富な問題などで、練習したり、確かめたり、ふり返ったりすることができる工夫がある。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>○導入課題「考えよう」をもとに学習のめあてを設定している。また、発展的内容として「学びにプラス」、「たしかめ」や適用練習「Q」のほかに「判断しよう」、「伝えよう」を設けて、数学的判断力・表現力が高められる。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>○各章の最後の問いでその章で学んだことよさに気付くことができるように、考えを深める工夫がされている。また、実社会とつながる「社会にリンク」や「活用・探求」の問題が設定されている。</p> <p>&lt;数学的活動の楽しさや数学のよさを実感させるための工夫&gt;<br/>○数学的活動の流れを巻頭に掲載し、写真やイラストから生徒が主体的に取り組めるよう工夫されている。学習課題を日常生活から選択し、章末では「活用・探求」を扱うことで、数学の有用性が実感できるよう構成されている。</p> |                  |
| <p>資 料</p>       | <p>○日常生活や社会の事象から問題を見出し解決するために、生徒が興味をもって取り組める場面がイラストや写真により提示されている。<br/>○図形領域では特に写真を有効に用いている。<br/>○キャラクターが効果的に使用されている。<br/>○新聞記事等から実感をともなう資料が用意されている。<br/>○データ活用力を学ぶことができる教材やグラフが用意されている。</p>   |                  |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○初出時の用語は太字で示し、ふりがなをふって読みやすくしている。<br/>○色覚特性に配慮した4色刷りを有効に使用している。<br/>○ユニバーサルデザインの視点で編集されている。<br/>○学習のめあてや重要事項のまとめが、はっきりと明示されている。<br/>○生徒の発達段階を考慮した文字の大きさ、行間で記述されている。</p>   |                  |
| <p>総 括</p>       | <p>○活動・例・例題を適切に配置し、数学的活動を通して見いだすことと、例・例題で学ぶことを明確にしている。<br/>○「学びにプラス」により、学習をひろげたり、活用したりすることで数学のよさを実感できるようになっている。<br/>○数学の世界をさらにひろげる問題や読み物などが設定されている。<br/>○デジタルコンテンツを利用できるようにQRコードが掲載されている。</p>   |                  |

種目（ 数 学 ）

|                  |  |                    |
|------------------|--|--------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>中学校数学</p>   | <p>1 1<br/>学 図</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>○「例」では、適切な箇所にノート形式の解答が示され、模範的な解答の書き方が示されている。「計算力を高めよう」、「確かめよう」では、どこで学んだ学習かが明確で、つねにふりかえって学習に立ち戻れる工夫がある。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>○「まとめの問題」や「深めよう」のページでは、既習事項を問題解決に活用し筋道を立てて考察できるとともに、習得した知識や技能を利用し、日常や社会における事象を簡潔・明瞭・的確に表現・処理する力が高められる。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>○小学校や前学年の内容の振り返り、高校数学へのつながりを意識させる問題があり、自ら学ぶ意識をもてる工夫がある。章の最後に「できるようになったこと」、「さらに学びたいこと」を自らの言葉で記入する問いもある。</p> <p>&lt;数学的活動の楽しさや数学のよさを実感させるための工夫&gt;<br/>○日常生活を数理的に捉えることで主体的に数学的活動に取り組み、さらに新たな課題が発見できるよう解決の過程を明示している。コラムや章末で数学の有用性を紹介することで数学のよさを実感できるよう配慮している。</p> |                    |
| <p>資 料</p>       | <p>○日常生活や社会の事象から問題を見出し解決するために、生徒が興味をもって取り組める場面がイラストや写真により提示されている。<br/>○教科書の上での作業がしやすいようなレイアウトにしてある。<br/>○挿絵やキャラクターは、生徒が親しみのもてるものが使用されている。<br/>○数学的な概念をイメージ化するのに適した図が多く取り入れられている。<br/>○データ活用力を学ぶことができる教材やグラフが用意されている。</p>   |                    |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○生徒の発達段階を考慮し、理解しやすい記述にしてある。<br/>○用語や記号は正確に理解できるような配慮がされている。<br/>○社会的な差別を助長することがないような表現にしてある。<br/>○ユニバーサルデザインの視点で編集されている。<br/>○色覚特性に配慮し、誰でも区別しやすい色遣いにしてある。</p>   |                    |
| <p>総 括</p>       | <p>○数学的活動のページでは、日常生活や社会の事象を数理的にとらえ、数学的に考える資質・能力を育成できるようにしている。<br/>○数学が身のまわりなどで役立つことを実感できるコラムとして、「数学の力」、「役立つ数学」を掲載している。<br/>○ノートの使い方を各学年の巻頭で取り上げている。<br/>○デジタルコンテンツを利用できるようにQRコードが掲載されている。</p>  |                    |

種目（ 数 学 ）

|                  |   |                  |
|------------------|---|------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>中学数学</p>   | <p>17<br/>教出</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>○章の入口にはその章に関連する既習内容を確認する問題を、出口にはその章で学習した基礎的・基本的な内容がまとまったページを設けている。また、本文においては基礎・基本の定着を図るための問題ページを設けている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>○ノート書き方がわかりやすく例示されている。また「数学的な考え方」の具体的な事例の問題があり、多様な考え方を引き出せるとともに、自分の考え方を説明したり解決の仕方をみんなで話し合ったりする工夫がある。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>○学習したことよさを強調する場面や数学が実生活の中で活用されている問題が設定してある。章の導入課題では日常の事象の考察から数学への課題へつながる問題が設定され、数学の必要性を感じることが出来る工夫がある。</p> <p>&lt;数学的活動の楽しさや数学のよさを実感させるための工夫&gt;<br/>○疑問や説明を求める問いかけを取り入れ、より数学的活動が効果的に取り組めるよう配慮されている。巻頭で多様な考えを促し、学習の過程を細かく分類して明示することで、生徒が主体的に取り組めるよう工夫されている。</p> |                  |
| <p>資 料</p>       | <p>○数学の楽しさやよさ、実社会とのつながりなどが感じられる教材や話題を豊富に掲載している。<br/>○伝統や文化に関わる話題により、郷土愛などを養えるようにしている。<br/>○多様な考え方ができる課題が設けられている。<br/>○地球規模の環境に関わる課題が取り上げられている。<br/>○データ活用力を学ぶことができる教材やグラフが用意されている。</p>  |                  |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○側注を設けて補足的な内容を扱っている。<br/>○文節で改行するなど、読みやすくわかりやすい配慮がされている。<br/>○ユニバーサルデザインの視点で編集されている。<br/>○新出の用語はゴシック太文字で示され、ルビが振られている。<br/>○QRコードを掲載し、学習の助けになる教材が参照できるようにしている。</p>   |                  |
| <p>総 括</p>       | <p>○章の入口にはその章に関する既習内容を確認する問題を、出口にはその章で学習した基礎的・基本的な内容がまとまったページを設けている。<br/>○自分の考え方を説明したり解決の仕方をみんなで話し合ったりする課題が設けられている。<br/>○学習感想を書かせる場面が設けられている。<br/>○前学年までの既習内容をふり返るページが設けられている。</p>  |                  |

種目（ 数 学 ）

|                  |  |                    |
|------------------|--|--------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>未来へひろがる数学</p>   | <p>6 1<br/>啓林館</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>○「問」の問題が充実し、基礎・基本が確実に身に付くように工夫している。章末問題では、基礎的・基本的な問題を取り上げ、分量も充実している。理解が不十分な箇所は、確認したい内容と参照するページが示されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>○章末問題「学びを身に付けよう」や「力をつけよう」では、思考力を育むことができる問題が掲載されている。また、「説明しよう」等では、自分の考えをまとめて伝えたり、他者と比較して考えを導いたりする工夫がある。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>○小学校の教科書に関連する項目を載せるなど、小中の単元の系統性を振り返りやすい工夫がされている。自分の学びを確かめる欄や習熟に合わせた問題も用意されている。</p> <p>&lt;数学的活動の楽しさや数学のよさを実感させるための工夫&gt;<br/>○数学的な表現を用いて説明する場面で、図などの情報から言語活動に取り組めるよう配慮されている。単元の導入で「学習のとびら」を設定し、数学が生活や社会の中で有用に働いていることを実感できるように工夫している。</p> |                    |
| <p>資 料</p>       | <p>○日常生活や社会の事象から問題を見出し解決するために、生徒が興味をもって取り組める場面がイラストや写真により提示されている。<br/>○「持続可能な開発目標（SDGs）」に関連した題材を扱っている。<br/>○問題解決力を身に付けるために、流れやページ構成が工夫されている。<br/>○目次、索引は見やすく使いやすいように工夫されている。<br/>○データ活用力を学ぶことができる教材やグラフが用意されている。</p>   |                    |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○文字の書体・大きさ・字間・行間など、見やすい配慮がされている。<br/>○ユニバーサルデザインの観点から編集されている。<br/>○生徒の心情を考慮してやわらかい表現にしている。<br/>○全ページで4色刷りを効果的に用いられている。<br/>○文章の意味のまとまりや文節による改行を行い、読みやすくしている。</p>  |                    |
| <p>総 括</p>       | <p>○「みんなで学ぼう編」と「自分から学ぼう編」の2部構成により、学校と家庭の学習が相互に効果的につながり合うようになっている。<br/>○利用の節や項などで、身のまわりの場面から問題を発見し、解決するまでの流れを4段階に分けてわかりやすく示されている。<br/>○生徒が自ら学びの過程を振り返って評価できる構成になっている。<br/>○QRコードを掲載し、学習の助けになる教材が参照できるようにしている。</p>   |                    |



種目（ 数 学 ）

|                  |  |                      |
|------------------|--|----------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>中学数学</p>  | <p>1 1 6<br/>目 文</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>○各章の初めに「ふりかえり」として、その章の内容に関する既習事項が確認問題とともにまとめられている。また、本文中においても、新たな学習事項と既習事項とのつながり、共通点やちがいがわかるように記述している。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>○巻末の「活用の問題」では、全国学力・学習状況調査で課題とされた問題が掲載され、方法や理由などを数学的に説明する記述問題となっている。「とりくんでみよう」では応用的・発展的な内容が取り入れられている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>○身近なことから数学の問題をつくる場面が課題に取り入れられていて、実社会とのつながりを感じることができる配慮がされている。また、解決した問題の条件の一部を変えて解くなど、意欲的に取り組める工夫がある。</p> <p>&lt;数学的活動の楽しさや数学のよさを実感させるための工夫&gt;<br/>○巻頭で数学の学び方の概要を示し、各章で問題解決的な授業展開の流れを明示している。身近なことから数学として捉えて考える過程を示し、実感を伴う学習を取り入れることで生徒が主体的に学べるよう工夫されている。</p> |                      |
| <p>資 料</p>       | <p>○どの地域の生徒にとっても身近で親しみやすい素材やデータを取り上げ、学習の本質に迫るための正確で適切な素材が選択されている。</p> <p>○現代的な諸課題の視点から題材が選定されている。</p> <p>○「持続可能な開発目標（SDGs）」に関連した題材を扱っている。</p> <p>○具体物を操作して考えるなどの具体的な体験を伴う学習に配慮されている。</p> <p>○データ活用力を学ぶことができる教材やグラフが用意されている。</p>  |                      |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○文章は平易で読みやすく、理解しやすい表現に配慮されている。</p> <p>○用語や記号は、わかりやすく意味を理解できるように配慮されている。</p> <p>○キャラクター「マテマ」の吹き出しにより、効果的な学習支援をしている。</p> <p>○ユニバーサルデザインの視点で編集されている。</p> <p>○写真で効果的に見せることで、内容をイメージできるようにしている。</p>  |                      |
| <p>総 括</p>       | <p>○数学のよさや楽しさを実感し、数学への関心・意欲が高まり、数学的活動に積極的に取り組もうとする態度が涵養されるようになっている。</p> <p>○巻頭で数学の学び方の概要を示し、各々の学習場面では具体的に学び方を明示することで、主体的・対話的で深い学びが実現できるようになっている。</p> <p>○思考力、判断力、表現力が育成できる学習課題が取り上げられている。</p> <p>○QRコードを掲載し、学習の助けになる教材が参照できるようにしている。</p>   |                      |

種目（ 数 学 ）

|                  |  |                    |
|------------------|--|--------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>これからの数学</p>   | <p>104<br/>数 研</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>                 ○習得した知識及び技能を新しい問題の解決に活用していく学習活動をくり返すことで、基礎的・基本的な学力を確かなものにできる構成となっている。小節末に「次の課題」を適宜示すことで、次の学習への意識を高めている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>                 ○学びから発生する自然な疑問などに着目した別冊の「探求ノート」があり、学びの発展を促している。また、各所に「見つけてみよう」などがあり、学んだ知識・技能を活用し、多様な考えを出し合い解決する場面がある。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>                 ○各章に数学の必要性や有用性が感じやすい課題があり、学びに向かう意識がもてるように配慮されている。また、適宜既習内容を振り返ることができる要点が記載され、自ら学習できるように工夫されている。</p> <p>&lt;数学的活動の楽しさや数学のよさを実感させるための工夫&gt;<br/>                 ○多様な意見を比較検討する場面や支援例を掲載し、対話により数学的活動に取り組みやすいよう工夫している。無理なく取り組める課題を設定し、身近な事象や興味深い課題も掲載することで生徒の主体性を促している。</p> |                    |
| <p>資 料</p>       | <p>○視覚的に理解しやすくなるよう適切に図を用いている。また、生徒が興味をもつ図や、生徒にとって身近なものの写真を、豊富に取り上げている。</p> <p>○「持続可能な開発目標（SDGs）」に関連した題材を扱っている。</p> <p>○現代的な諸課題の視点から題材が選定されている。</p> <p>○巻末付録に活動用の教具がついている。</p> <p>○データ活用力を学ぶことができる教材やグラフが用意されている。</p>   |                    |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○適切にふりがながつけられており、発達段階に配慮している。</p> <p>○他教科で学ぶ事柄がアルファベットで表記されている。</p> <p>○数式で表現したり、数式を読み取ったりする機会が豊富に設けられている。</p> <p>○ユニバーサルデザインの視点で編集されている。</p> <p>○ページ途中で項目が始まらないように工夫されている。</p>   |                    |
| <p>総 括</p>       | <p>○生徒たちが自ら考えて問題解決に向かう姿を対話形式で掲載することで、数学的に解決するプロセスに焦点が当たるような構成になっている。</p> <p>○学んだことが振り返られるように項目初めに学習内容を記載し、その単元の具体的な目標が見やすい位置に示されている。</p> <p>○本冊と別冊の2部構成により、資質・能力を高められるようになっている。</p> <p>○デジタルコンテンツを利用できるようにQRコードが掲載されている。</p>   |                    |

種目（理科）

|                     |  |                    |
|---------------------|--|--------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>新しい科学</p>   | <p>2</p> <p>東書</p> |
| <p>内容</p>           | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○観察・実験の方法は、「ステップ」で区切っており、手順を明確にしている。單元ごとに、見通しとふり返りが確認できる「Before &amp; After」があり、つまずきやすい箇所には、<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">D</span>マークデジタルコンテンツが設定されている。また、單元末の「確かめと応用」は、マークでふり返りを意識させている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○巻頭の「考察はここをおさえよう」、「レポートの書き方」で、基礎を押さえてから考察を科学的に表現できるようになっている。また、「課題に対する結論を表現しよう」を各節ごとに設け、言語活動の充実を図っている。さらに、空間認知能力の向上のためのペーパークラフトも掲載されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○各節冒頭の「問題発見 レッツスタート！」において、問題に気づきを得たり、認知的葛藤を生じたりする問いかけを設けることで、目的意識を持って主体的に学習に取り組めるようになっている。單元末には各單元3冊の科学読み物を紹介し、科学史のコラムにはマンガをとり入れている。</p> <p>&lt;自然の事物・現象を科学的に探究するための工夫&gt;</p> <p>○「調べ方を考えよう」など探究の課程に直結した言語活動を配置し、生徒が主体的に探究的な学習に取り組めるよう工夫されている。また、重点をかけて取り組む節は、「探究をレベルアップ」として学習活動を充実させ、問題発見から活用までのステップを細かく設定している。</p> |                    |
| <p>資料</p>           | <p>○巻頭には「探究の流れと教科書の使い方」が掲載されており、生徒が主体的に活動できるようになっている。</p> <p>○巻末に「世界の活火山分布」、「震源分布」、「温帯低気圧3D」、「星座早見をつくろう」が付録資料として添付され、空間認知能力の向上を図っている。</p> <p>○巻末資料として「実験器具一覧」、「薬品のあつかい方」、「グラフのかき方」、「科学史年表」などが掲載されている。</p>  |                    |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○サイズがA4スリムの縦長で、本文を左側に寄せたレイアウトになっている。</p> <p>○多くの観察・実験の操作手順を縦一列に配列することと合わせて、探究の流れや手順を確認しやすくなっている。また、縦長のため、観察・実験の際にも邪魔にもなりづらいようになっている。</p> <p>○探究の流れをフローチャートで確認できるようになっている。</p>   |                    |
| <p>総括</p>           | <p>○すべての節の導入において、学習内容に関する気づきを引き出しながら、主体的に学習できる工夫があり、学習の進め方が分かりやすくなっている。</p> <p>○A4スリム版を採用しており、観察・実験の流れや手順が見やすく安全性を高めている。</p> <p>○巻頭で、科学的に探究していく方法やその過程を示しており、探究したものを自分の言葉で表現できるように工夫されている。</p>   |                    |

種目（理科）

|                     |   |                     |
|---------------------|---|---------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>理科の世界</p>  | <p>4</p> <p>大日本</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○学年ごとに重点項目を設定しており、観察・実験等でそれを促す工夫がとられている。各単元導入の「これまでに学習したこと」、「これから学習すること」を見開きで掲載し、見通しをもち主体的に学習ができるように設定され、身につけた力を「読解力問題」でさらに深化できるようになっている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○問題の発見、計画の立案、結果の分析、ふり返りから原理や法則を導くようになっており、「結果から考えよう」では科学的に表現することを促している。また、豊富なキャラクターの会話場面や「話し合おう」により、対話的な学習から自分の考えをより確かなものにしていく工夫がとられている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○教科書全体を通して、生徒に身近なものや科学への夢を持てるようなものの写真や、分かりやすく丁寧な資料を掲載することで、生徒の知的好奇心を高められるようになっている。巻頭ページでは、学習する意欲を喚起するよう、理科に関する職業が紹介されている。</p> <p>&lt;自然の事物・現象を科学的に探究するための工夫&gt;</p> <p>○観察・実験において、疑問を提示するとともに、タイトル、目的、着目点を分けて明記し、探究の過程が明確になるようにしている。単元末の「探究活動」では、新たな問題を解決することによって、さらに学びが深くなるよう促し、生徒の見方・考え方が確かなものになるようにしている。</p> |                     |
| <p>資 料</p>          | <p>○各単元の冒頭のページには、「これまでに学習したこと」が掲載されている。</p> <p>○「くらしの中の科学」、「Science Press」がその単元の科学の学びにつながる資料として掲載されており、深く探究することができるようになっている。</p> <p>○巻末に、「理科室のきまり」、「探究の進め方」、「ノートやレポートの書き方」、「薬品の扱い方」、「基本操作」、「自由研究にチャレンジしよう！」など、観察・実験に関する内容が事細かく掲載されている。</p>  |                     |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○レイアウトに配慮し、本文と資料が区別しやすくなっている。</p> <p>○探究活動を意識できるよう探究の過程がマークで示されており、各学年で特に重視する項目は目立つようにマークのデザインを変えている。</p> <p>○キャラクター同士が会話する形式で考え方や助言を提示している。吹き出しの文字の改行位置を文節等で区切り、読みやすくなっている。</p>   |                     |
| <p>総 括</p>          | <p>○巻頭の「理科の学習の進め方」により、生徒が見通しをもって学習できるようフローチャートで示されている。</p> <p>○学年ごとに重点項目を設定しており、系統立てて学習できるようになっている。</p> <p>○巻末の「探究の進め方」により、課題解決学習の流れを具体的な課題をもとに示されており、より主体的な深い学びができるようになっている。</p>   |                     |

種目（理科）

|                     |   |                      |
|---------------------|---|----------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学校科学</p>  | <p>11</p> <p>学 図</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○各章ごとに「Can-Do List」を掲載しており、見通しをもち主体的に学習に取り組める。また、章末のQRコードでは何ができるようになったかを自己チェックができたり、チェックボックスが設けられている。さらに、つまずきやすい箇所にもQRコードがあり、探究しながら知識及び技能が習得できる。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○「この時間の課題」の中で「見方」や「考え方」を提示し、観察・実験の結果から考察して身につけた力を、「ふり返り」で深めていくように設定されている。また、その活動の中で、他者の意見を聞いたり、自分の意見を人に伝えたりする方法としてのアイデアボードがあり、表現活動に工夫が見られる。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○各単元のはじめや探究のはじめに、その探究活動につながる「気づき」の例を示し、生徒が解決したくなるような導入場面を設けている。また、中学生の実際の自由研究例のページを設け、他者を意識しながら探究できるように工夫されている。</p> <p>&lt;自然の事物・現象を科学的に探究するための工夫&gt;</p> <p>○1時間ごとの課題に対して、どのような「見方」、「考え方」をはたらかせていくのかを示している。探究活動では、全てのページにおいて、探究を過程に分解して表現しており、探究の流れが意識しやすくなるように工夫されている。また、学年ごとに探究の重点を意識した構成になっている。</p> |                      |
| <p>資 料</p>          | <p>○写真やイラストの多さに長けており、QRコード先のインターネット教材を通して観察・実験器具の使い方や参考情報が確認できるようになっている。</p> <p>○巻末に「学びの交換—アイデアボード—」があり、話し合い活動に活用できるようになっている。</p> <p>○巻頭には「理科のトリセツ」があり、なぜ理科を学ぶのかそれぞれの学習内容と身のまわりの科学の関連が掲載されている。</p>  |                      |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○探究の仮説や計画の場面では、気づき、課題、仮説、計画という流れを、キャラクターの話し合いを用いて提示し、問題解決の仕方を示している。</p> <p>○本時の課題を、見方・考え方の視点で別枠に表記している。</p> <p>○本時のまとめや観察・実験でわかったことを、「この時間のまとめ」としてコンパクトに表記している。</p>  |                      |
| <p>総 括</p>          | <p>○各章ごとに「Can-Do List」などを掲載しており、主体的に学習でき、知識の定着が図られるように工夫されている。</p> <p>○左右に広いAB版サイズでもQRコード教材を取り入れ軽量化を図っており、生徒の負担を減らしている。</p> <p>○観察・実験のフローチャートは、順序立てて思考できるようになっており、巻末のアイデアボードなど、表現力向上ための工夫がされている。</p>  |                      |

種目（理科）

|                     |   |                     |
|---------------------|---|---------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>自然の探究 中学理科</p>   | <p>17</p> <p>教出</p> |
| <p>内容</p>           | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○各章導入として「これまでの学習」と「学習前の私」が、章末には「要点をチェック」、「学習後の私」が掲載されており、目的意識を持ち探究するための基礎を育む工夫がとられている。また、各単元末には「要点と重要用語の整理」、「基礎問題」が、巻末には「基礎技能」がまとめて設定されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○巻頭の基礎技能「レポートの書き方」によって、結果を分析・解釈するための論理的な考察が表現できるように工夫されている。さらに、観察・実験のフローチャートは順序立てて思考できるようになっている。知識を深化させるための「学年末総合問題」、巻末のペーパークラフトなども設定されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○「学習前の私」、「学習後の私」には同じ問いかけが設定されており、学習を通じた自身の成長を実感することができる。また、観察・実験によって得られた結果が、自分の予想と一致しなかった場合も取り上げ、生徒が考えや調べ方を見直す大切さを実感できるよう工夫されている。</p> <p>&lt;自然の事物・現象を科学的に探究するための工夫&gt;</p> <p>○各単元に1～2ヶ所ずつ位置づけられた「疑問から探究してみよう」により、科学的に探究する力を重点的に育成できるように配慮されている。巻頭の「探究の進め方」は折り込みとして綴じられており、本文ページを開いたまま対照できるため、常に見通しをもって学習に取り組むことができる。</p> |                     |
| <p>資料</p>           | <p>○単元においての自然の事象や生活と関連した写真が大きく配置されている。</p> <p>○巻末に「原子のモデルカード」、「星座早見盤作成シート」などが切り取り式の付録資料として添付され、生徒の関心を高めさせるようになっている。</p> <p>○巻頭には「探究の進め方」、「レポートの書き方」、巻末には、「自由研究の例」、「基礎技能」、「教科書に記載されている主な物質・試薬の一覧」が資料として掲載されている。</p>  |                     |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○探究の進め方を、項目ごとに大きいアイコンで表示し目立つように工夫されている。観察・実験の結論は、枠付きではっきりと示されている。</p> <p>○側注のない脚注レイアウトとなっており、読み手が視点移動で迷わないデザインとなっている。</p> <p>○学習上の重要な用語が、明るい橙色の太字で強調されている。</p>   |                     |
| <p>総括</p>           | <p>○巻頭で示されている「探究の進め方」は、小学校の問題解決の流れを受け継いだものになっており、中一ギャップに配慮されている。</p> <p>○小学校での学びや、「学習前の私」、「学習後の私」などを通して目的意識を持ち、自ら学習に向かうための手助けや自身の成長を実感させることに配慮された構成になっている。</p> <p>○実験の考察だけでなく、結論が赤線で囲まれはっきりと示されている。</p>   |                     |

種目（理科）

|                  |  |                   |
|------------------|--|-------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>未来へひろがるサイエンス</p>  | <p>61<br/>啓林館</p> |
| <p>内容</p>        | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>                 ○既習事項を確認し、自主的に学習できるように工夫されている。「基本のチェック」、「学習のまとめ」で基礎用語を確認し、つまづきやすい箇所は「なるほど」やQRコードでわかりやすく説明している。また、観察・実験では注意事項がマークで表示されており、安全に探究できるようになっている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>                 ○「話し合ってみよう」、「考えてみよう」では、それぞれ計画、比較、作図等の指示があり、対話的な学習を通して自分の意見を固めるための助言が表記されている。また、「表現してみよう」では発表するための工夫があり、自分の意見を表現できるようになっている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>                 ○単元や章、節の導入に、美しく興味深い写真・資料を提示し、学習意欲を喚起している。また、単元や章の導入に関連する問いが設けられ、学習前後の変容が見られる構成になっている。日常生活や社会に関連したコラムを掲載し、理科が身近に感じられるように工夫されている。</p> <p>&lt;自然の事物・現象を科学的に探究するための工夫&gt;<br/>                 ○仮説や計画などを生徒自身が考える「探Q実験」を単元に1つ設けている。巻末の「探Qシート」には、探究の過程で自分の考えを自由に書き込むことができ、探究活動のサポートにつながる。また、単元末には身のまわりの疑問を、探究の過程に沿って解決していくページが設けられている。</p> |                   |
| <p>資料</p>        | <p>○各単元における写真やイラストの量の多さに長けており、さらに補足資料としてQRコードで参考情報が閲覧できるようになっている。</p> <p>○巻末に「探Qシート」という観察・実験のワークシートとして用いる資料が添付されており、自分のことばでまとめ、表現できるようになっている。</p> <p>○各単元に科学コラムとして「部活ラボ」、「お仕事ラボ」、「お料理ラボ」が掲載されており、生活と結びつけて考えられるようになっている。</p>  |                   |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○図や写真は上部や側部に、本文は下部に幅をそろえたレイアウトとなっており、資料と本文が区別しやすく工夫されている。</p> <p>○実験における注意・配慮すべき点をマークで表している。</p> <p>○すべての人が見やすく、読みやすい配色・デザインになるよう、メディア・ユニバーサルデザインを用いている。</p>  |                   |
| <p>総括</p>        | <p>○探究の過程では主体的に取り組む活動として、各単元に1つ「探Q活動」を設定し、「探Qシート」により、活動をサポートできるようになっている。</p> <p>○AB判を生かした見開きのダイナミックな単元導入や、美しく興味深い写真により、生徒の知的好奇心を喚起している。</p> <p>○観察・実験においては、最後に「探究のふり返し」で探究の過程を押さえ、妥当性を検証し新たな課題につなぐようにしている。</p>   |                   |

種目（音楽 一般）

|                     |  |                            |
|---------------------|--|----------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学生の音楽</p>  | <p>27</p> <hr/> <p>教 芸</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○三つの資質・能力を確実に育成できるよう、「学習目標」「活動文」「音楽を形づくっている要素」を教材ごとに設定し、それらが一目で分かるように示している。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○学習の手順を分かりやすく示すとともに、吹き出しなどで生徒の思考の例を明示することによって、「生徒の思いや意図」をどのように生かすのかが分かるように工夫している。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○キャラクターの吹き出し、演奏者からのアドバイス、見通しと振り返りなどで、教材ごとの学びと年間ごとの学びの工夫がされている。</p> <p>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫&gt;</p> <p>○歌唱表現では、曲の構成を細かく分析できるような表を使い、創意工夫を生かせるように配慮されている。</p> <p>&lt;生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <p>○音や音楽が、生活や社会、文化とどのように関わり、どのような意味や価値をもつのかを意識的に考えるページを掲載している。</p> <p>○クラシック音楽からポピュラー音楽まで多彩なジャンルの作品を紹介する資料を掲載している。</p> |                            |
| <p>資 料</p>          | <p>○学習をサポートする参考資料を、紙面上の2次元コードを読み取ることによって閲覧できる。</p> <p>○キャラクターによる吹き出し、演奏者からのアドバイスが掲載されており、主体的・対話的で深い学びをサポートしている。</p> <p>○基本的に白を基調とし、見やすく、スッキリした誌面とし、情報の配置にも配慮されている。</p>   |                            |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○学習する音符、休符、記号、用語にはページ数も書いてあり、意味や説明文を、わかりやすくまとめてあるところで調べることができる。</p> <p>○文字の読みやすさを重視し、背景が無地の部分に歌詞を配置している。</p> <p>○全体の9割以上でユニバーサルデザインフォントが使用されており、誰もが読みやすい文章や楽譜となるよう配慮している。</p>   |                            |
| <p>総 括</p>          | <p>○歌唱共通教材は、「歌いつごう 日本の歌 心の歌」として配置されており、より歌詞に忠実な写真を掲載し、イメージを持てるようにしている。</p> <p>○各界のプロフェッショナルの方から音楽や芸術とご自身の関わりについてのメッセージがあり音楽の見方・考え方の育成を後押ししている。</p> <p>○三つの資質・能力と、それに対する学習内容や教材を示した「学びの地図」を配置し、身につく学力が一目で分かるようになっている。</p>   |                            |



種目（音楽 一般）

|                     |   |                           |
|---------------------|---|---------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学音楽 音楽のおくりもの</p>  | <p>17</p> <hr/> <p>教出</p> |
| <p>内容</p>           | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○音楽の構造や旋律のまとまりをとらえ、音楽全体の構成を理解して学習できるように主要教材を基盤として、「比べてみよう」「深めてみよう」と学びが深まるように工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○音楽に関する知識や技能を得たり生かしたりしながら、自ら歌唱表現を工夫することや他者と交流しながら小集団や学級としての表現をつくることのできる教材設定を工夫している。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○音楽で表現される生命の尊さや自然の大切さを理解し、尊重する態度を目指すために、我が国の音楽を豊かに表現できる教材設定の工夫がされている。</p> <p>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫&gt;</p> <p>○歌唱表現では、楽曲分析の手順やヒントが示されており系統的・発展的に学べるよう工夫されている。</p> <p>&lt;生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <p>○表現と鑑賞の活動を関連づけ、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい愛着をもつことができるよう工夫されている。</p> <p>○各学年に「何が同じで、何が違う？」を設け、さまざまな音楽について共通性や固有性を考えることができ、音楽文化の深まりを目指している。</p> |                           |
| <p>資料</p>           | <p>○Let's Sing!やLet's Try!では表現するための技能をイラストや図を使ってわかりやすく説明している。</p> <p>○「学びを支えるWEBリンク」が記載されており、音源、動画、ワークシートを活用することができる。</p> <p>○巻末の楽典の資料については、知識だけではなく教材との関連が双方向に図られている。</p>  |                           |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○ユニバーサルデザインフォント、カラーユニバーサルデザイン、レイアウト、表現方法などを取り入れ、すべての生徒への配慮をしている。</p> <p>○全学年とも楽典のページを巻末の折り込みページで示している。</p> <p>○学習する音符、休符、記号、用語はわかりやすいように丸で囲まれており、楽典のページで確認することができる。</p>  |                           |
| <p>総括</p>           | <p>○歌唱共通教材は、「日本の歌 みんなの歌」として配置されており、より歌詞に忠実な写真を掲載し、イメージを持てるようにしている。</p> <p>○主体的、対話的で深い学びを目指すために、表現と鑑賞の学習バランスに配慮している。</p> <p>○全学年を通して、学びのねらいと学習する曲や活動、学習を生かして比べる曲などを「学びのユニット」として示しているページがある。</p>  |                           |

種目（音楽 器楽合奏）

|                     |   |                            |
|---------------------|---|----------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学生の器楽</p>   | <p>27</p> <hr/> <p>教 芸</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <p>○基礎的、基本的な技能を身に付けることや音楽への理解をさせるために、写真や図などを多く取り入れ、説明の内容もわかりやすい。また、教材の配置なども積み重ねの学習ができるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○学習目標や具体的な学習活動が示されていることや深い学びを引き出すために具体的な手順が書かれていることで、それらをヒントに音楽表現の創意工夫を考えることができるように工夫されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○各教材を通して自分がどのような音楽の力を身に付けられるのか見通しがもてるようになっている。また、様々な音楽文化や楽器のつながりを知ることができることや授業以外でも音楽活動が続けられるような資料が掲載されているなど、生涯音楽文化に親しめるよう工夫されている。</p> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <p>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な曲から練習できるよう工夫されている。また、運指が両端に示されて、確認できるようになっている。</p> <p>＜生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○音や音楽が、生活や社会、文化とどのように関わり、意味や価値をもつのか意識的に考えられるようになっている。生徒たちにとって身近で親しみがもてるものや同世代の音楽活動を掲載するなどの工夫がされている。</p> |                            |
| <p>資 料</p>          | <p>○楽器の演奏法が示されており、学習をする際の手立てとなっている。</p> <p>○各楽器の奏者からのメッセージや図鑑、コード表など見やすく、わかりやすい資料となっている。また、その楽器や学年、レベルに適した曲、合奏曲が豊富に掲載されている。</p> <p>○和楽器の資料としては、お箏の他に、三味線、太鼓についての奏法の基本について、かなり詳しく掲載されている。</p>  |                            |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○アーティキュレーションの説明では、音形を図形で表しているため、音形についてイメージしやすく工夫されている。楽譜が複数段になっている教材は、段と段の間隔があり見やすく、演奏のポイントも丁寧に示されている。</p> <p>○アンサンブルの曲では具体的な学習目標や学習活動が示され、生徒が主体的に取り組みやすいものになっている。</p>   |                            |
| <p>総 括</p>          | <p>○紙面上の二次元コードのQRコードを読みとることによって学習をサポートする参考資料を閲覧することができ、学習を深めることができる。</p> <p>○リコーダーや和楽器だけでなく、打楽器も数多く取り上げられている。楽器については丁寧な説明があり、理解しやすいように工夫されている。</p> <p>○紙面の編集について、全体的に、特別支援教育の視点に立った配慮や、色覚特性をもった生徒への配慮がなされている。</p>   |                            |

種目（音楽 器楽合奏）

|                  |   |                  |
|------------------|---|------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>中学器楽 音楽のおくりもの</p>  | <p>17<br/>教出</p> |
| <p>内容</p>        | <p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞<br/>○基礎的、基本的な技能を身に付けることや音楽への理解をさせるために、写真や図などを多く取り入れ、わかりやすく説明し、教材の配置なども基本から発展へつながるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞<br/>○楽器ごとの練習曲や合奏曲など豊富に掲載されていて、様々な学習アプローチができるよう工夫されている。また、生徒が興味関心をもって、音楽表現の工夫がしやすいような目標設定がされている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞<br/>○WEBコンテンツが用意されているものがあり、様々な場面で色々なアプローチを用いて学習に取り組めるよう工夫がされている。また、様々な音楽文化や楽器とのつながりを知ることができるとともに、似た楽器を比較することでさらに興味関心などを高めることができるよう工夫している。</p> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞<br/>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な曲から練習できるよう工夫されている。また、運指が両端に示されて、確認できるようになっている。</p> <p>＜生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞<br/>○和楽器について、その楽器のことだけでなく、その楽器が使われている伝統楽器などとリンクさせて学習、演奏できるようになっている。また、生徒たちが和楽器を身近に感じられるよう親しみやすい曲を扱うなど工夫もされている。</p> |                  |
| <p>資料</p>        | <p>○吹く楽器、弾く楽器、打つ楽器の順で掲載されているため、それぞれの楽器の比較がしやすくなっている。</p> <p>○音楽表現を視聴するなど学習で使用できるWEBでリンクさせ、家庭でも音を聴いたり、映像を見たりして学ぶことができる。</p> <p>○和楽器の資料としては、縦譜と五線譜の両方が掲載されている。「さくらさくら」等は、同じページにあり、関連させて見やすく工夫されている。</p>   |                  |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○アーティキュレーションの説明では、音形を図形で表しているため、生徒は音形についてイメージをしやすく工夫されている。用語・記号においては、演奏順序についての説明が詳しく書かれている。</p> <p>○運指や奏法でつまずきそうな箇所については、同ページに解説や注釈があり学習しやすく工夫されている。</p>   |                  |
| <p>総括</p>        | <p>○紙面の編集について、全体的に、特別支援教育の視点に立った配慮や、色覚特性をもった生徒への配慮がなされている。</p> <p>○楽器の説明が丁寧にされている。また、生徒が興味関心を持って取り組めるように親しみやすい曲が多く掲載されている。</p> <p>○多様な授業展開を考えることができるよう工夫されており、生徒が生涯にわたって大切にできる教科書である。</p>   |                  |

種目（美術）

|                     |  |                           |
|---------------------|--|---------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>美術</p>  | <p>9</p> <hr/> <p>開隆堂</p> |
| <p>内容</p>           | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○題材の説明、作品の解説、作者の言葉の中に、造形的な見方・考え方に気付く視点を盛り込み、自然に意識できるようになる工夫がある。</p> <p>○題材の道具や技法の基礎的な知識や技能について、巻末に「学びの資料」を設け、鮮明な画像と丁寧な説明で示し、学びやすく工夫している。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○全ての題材で、主題を生み出すために有効な「学習のポイント」や、制作の進め方のヒントをマークによって示す等の工夫がある。</p> <p>○思考のつまづきを解決する手立てとして、特定の題材に、主題を生み出すまでの過程を詳細に示している。思考の仕方を学ぶのに有効な工夫である。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○「学びの地図」によって美術の学びの全体像を示すとともに、各巻頭のメッセージにより、幅広く深い美術の世界に気付かせる工夫がある。</p> <p>○実際の社会生活の中で、どのように美術が役割を担うことができるかを「暮らしに生きる美術」として示す工夫がある。</p> <p>&lt;表現及び鑑賞が相互に関連する学習活動を充実するための工夫&gt;</p> <p>○全ての頁に、美術への関心が高まる魅力的な作家作品と生徒作品を効果的に配置し、表現活動と鑑賞活動が相互に行える工夫がされている。</p> <p>○題材ごとの「学習のポイント」「作者の言葉」が、表現活動と鑑賞活動の両方の活動を充実させるヒントの言葉になっている。</p> |                           |
| <p>資料</p>           | <p>○QRコードを要所に掲載し、授業の導入や鑑賞で活用したり、家庭での学習の支援で活用したりすることができるように工夫されている。</p> <p>○巻末に「学びの資料」として、素材や用具の種類、技法等を細かく取り上げており、必要な学びが効果的にできるように工夫されている。</p> <p>○原寸大の図版や部分を拡大した図版を掲載し、鑑賞する対象のイメージが膨らむように工夫されている。</p>  |                           |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○特別支援教育及びインクルーシブ教育の考えに基づき、ユニバーサルデザインフォント、カラーユニバーサルデザイン、WEBとの連携が図られている。</p> <p>○新学習指導要領に合わせた評価の観点と関連付けた「学習の目標」が、題材ごとの言葉でわかりやすく示されている。</p> <p>○題材の内容との関連する「学びの資料」の頁が適所に示されている。</p>  |                           |
| <p>総括</p>           | <p>○美術2と美術3を一冊にまとめているので、学年をまたぎ学習内容を関連付けた指導が行いやすい。表現領域と鑑賞領域においても同様である。</p> <p>○教科書の幅が広くしたことで余裕をもった紙面構成になり、紙面が見やすくなっている。</p> <p>○人権教育、道徳教育、特別支援教育、環境教育、国際理解教育、カリキュラムマネジメント等の視点が配慮されている。</p>  |                           |

種目（美術）

|                     |   |                           |
|---------------------|---|---------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>美術</p>   | <p>38</p> <hr/> <p>光村</p> |
| <p>内容</p>           | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○題材ごとに、題材を提案する頁、具体的な作り方を紹介する頁、作品を鑑賞する頁が別に示されており、学習内容を明確にする工夫をしている。</p> <p>○具体的な作り方をQRコードによる動画で示したり、巻末の「学習を支える資料」として示したり、知識や技能を自ら学べる工夫がされている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○題材ごとに「表現 みんなの工夫」として、主題と表現を生み出す複数の過程を明確に示し、思考のつまずきを改善する資料となっている。</p> <p>○題材ごとの掲載作品の「作家の発想・構想」「作者の言葉」「表現 発想構想」が、思考力、判断力、表現力等を刺激するように工夫されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○美術の本質に迫る谷川俊太郎の言葉や、「美術館を楽しもう」「美術鑑賞を楽しむ手がかり」「地域と美術とのつながり」「美術の力」など、美術の奥深さや、美術とのつきあい方を感覚に訴える工夫がされている。</p> <p>○作家作品と生徒作品を同等に扱い、美術への親しみを高める工夫がある。</p> <p>&lt;表現及び鑑賞が相互に関連する学習活動を充実するための工夫&gt;</p> <p>○題材ごとに、表現・発想構想、表現・みんなの工夫、鑑賞・生徒作品、鑑賞・作家作品の頁を設け、その題材で学習する表現と鑑賞が明確になっている。</p> <p>○題材ごとの目標が、表現と鑑賞の2つによって記されており、表現と鑑賞が相互に関連することが意識されている。</p> |                           |
| <p>資料</p>           | <p>○QRコードによる動画や画像の資料が、教科書では掲載しきれない作品例を示したり、音声ガイドによって鑑賞を充実させたりする工夫がある。</p> <p>○巻末に「学習を支える資料」として、素材や用具の種類、技法等がわかりやすい説明とともに示され、制作に役立てる工夫がされている。</p> <p>○制作意欲を刺激する生徒作品と作家作品をバランス良く取り入れている。また、特定の図版では、用紙の素材を工夫し、鑑賞の充実を図る工夫がある。</p>   |                           |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○特別支援教育及びインクルーシブ教育の考えに基づき、ユニバーサルデザインフォント、カラーユニバーサルデザイン、WEBとの連携が図られている。</p> <p>○題材の目標を表現と鑑賞で示していることに加え、題材・表現・鑑賞を巧みに組み合わせた頁割で、表現と鑑賞が相互に関連するようになっている。</p> <p>○題材の内容と関連する「学習を支える資料」の頁が示されている。</p>  |                           |
| <p>総括</p>           | <p>○美術2と美術3を一冊にまとめているので、学年をまたぎ学習内容を関連付けた指導が行いやすくなっている。</p> <p>○美術の魅力を、詩や作者のメッセージで語るような特色が見られ、考えをもち表現や鑑賞の内容を深めるのに役立てる内容構成となっている。</p> <p>○人権教育、道徳教育、特別支援教育、環境教育、国際理解教育、カリキュラムマネジメント等の視点が配慮されている。</p>  |                           |

種目（美術）

|                     |   |                             |
|---------------------|---|-----------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>美術</p>   | <p>116</p> <hr/> <p>日 文</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○習得させる内容に関連づけた題材名や、題材に応じた「造形の視点」により題材を通じて学ぶことをわかりやすく示す工夫が見られる。</li> <li>○題材の頁で主な技法を写真で示していることに加え、巻末の「学びを支える資料」で詳細な写真と説明があり、知識と技能が学びやすい工夫がある。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各題材の「造形的な視点」が、思考力を刺激する問いかけになっており、参考作品を鑑賞する時に、自然と考えが深まる工夫となっている。</li> <li>○各題材で、生徒の制作する姿や、作品につながるアイデアスケッチ等が示されており、思考、判断、表現の過程を大切に感じ取れる工夫がある。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「3年間の成長地図」やオリエンテーションの頁、世の中で活躍する方々の言葉が充実しており、美術で学ぶことの意味に気付く工夫になっている。</li> <li>○2・3下表紙のオキュラスに代表されるような、社会との関連が深い作品や、社会へのメッセージが強い作品の掲載が関心を高める工夫になっている。</li> </ul> <p>&lt;表現及び鑑賞が相互に関連する学習活動を充実するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての頁に、美術への関心が高まる魅力的な作家作品と生徒作品をバランス良く配置し、表現活動の導入が鑑賞活動になるような工夫がされている。</li> <li>○作品に関する言葉が、表現活動にとっては主題を明確にする役割をもち、鑑賞活動にとっては、制作の意図や考えを掴む役割をもつようになっている。</li> </ul> |                             |
| <p>資 料</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○QRコードによる資料が、制作の手順を紹介する動画だけでなく、テレビ番組を思わせるような動画や、新たな見方を紹介する動画があり、教科書との連携の可能性を感じさせるものになっている。</li> <li>○巻末に「学びを支える資料」を鑑賞、技法、色彩の項目を立てて示しており、学習活動に役立つ内容になっている。</li> <li>○原寸大や見開きの図版が学習意欲を刺激するものになっている。</li> </ul>   |                             |
| <p>表記・表現</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援教育及びインクルーシブ教育の考えに基づき、ユニバーサルデザインフォント、カラーユニバーサルデザイン、WEBとの連携が図られている。</li> <li>○「学びの目標」が、題材ごとの言葉で明確に示されている他、安全に関する注意を7項目のマークで分類して示し理解しやすくなっている。</li> <li>○題材の内容との関連する「学びを支える資料」の頁が充実している。</li> </ul>  |                             |
| <p>総 括</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○2. 3上と2. 3下の分冊により、各学年で学ぶことが明確になっており、発達の段階に合わせた指導を行いやすくなっている。</li> <li>○美術の魅力を、新しい作品やジャンルを広げて紹介しており、社会とのつながりを一層強く感じることでできる内容構成となっている。</li> <li>○人権教育、道徳教育、特別支援教育、環境教育、国際理解教育、カリキュラムマネジメント等の視点が配慮されている。</li> </ul>  |                             |

種目（ 保健体育 ）

|                     |  |                           |
|---------------------|--|---------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>新しい保健体育</p>   | <p>2</p> <hr/> <p>東 書</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <p>○本文では指導内容が簡潔にまとめられている。各章末には「確認の問題」と「活用の問題」があり、知識の定着を図ることができる。技能の学習に関するページでは、イラストや写真により手順がわかりやすく示されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」では、それぞれのステップで発問が設定され、課題の解決に向けて思考・判断し、表現することができるように工夫されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○巻頭に「この教科書の使い方」「保健体育の学習方法」が掲載されており、教科書の「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の4ステップで構成してあるため学習に主体的に取り組めるように配慮されている。</p> <p>＜生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○多くの人がスポーツを楽しんでいる姿から、生涯にわたりスポーツに関わり、楽しさや喜びを味わう意欲がわくよう配慮されている。</p> |                           |
| <p>資 料</p>          | <p>○教科書内で「D マーク」がある項目はインターネットを使用して具体的な場面を映像と音声で伝える動画教材や試行錯誤できるシミュレーション教材など、学びを深められるよう工夫されている。</p> <p>○知識や学んだことを踏まえて課題を見付けることや、学習したことを更に調べたり、考えたことを伝え合ったりすることなどを通して、主体的・対話的で深い学びを実現することができるように学習の流れが工夫されている。</p>  |                           |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○発達段階に応じた適切な語句で簡潔明瞭に表現されている。重要語句をゴシック体で区別され、「キーワードの解説」等が設けられている。</p> <p>○学習の流れが一目で分かるようになっている。紙面の色数を限定し、見やすく落ち着いたレイアウトになっている。</p>   |                           |
| <p>総 括</p>          | <p>○単元が「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」に統一され、生徒が見通しを持って課題解決的な学習に取り組むことができる構成になっている。</p> <p>○デジタルコンテンツが充実しており、ICT機器を活用した学習が行いやすいようにわかりやすく示されている。</p> <p>○他項目や他教科との関連が示されており、学習したことを既存の知識などと結び付けて考えられるように工夫されている。</p>  |                           |

種目（ 保健体育 ）

|                     |   |                           |
|---------------------|---|---------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学校 保健体育</p>   | <p>4</p> <hr/> <p>大日本</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○各項目の「キーワード」や、各章末で重要語句の再確認をすることで、知識の定着を図ることができるようになっている。WEB マークが示されている箇所は、動画や資料を見ながら学習することができる。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」で課題を解決する活動を行ったり、「活用して深めよう」で学習したことを活かす活動を行ったりすることで思考力、判断力、表現力等を育成することができるようになっている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○導入の活動「つかもう」では生徒に身近な題材や生活について取り上げ、口絵では、生徒が学習する重要性を理解し、自分のこととして捉え、主体的に学習に取り組む態度が養われるように工夫されている。</p> <p>&lt;生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <p>○障害のある人達の支援やスポーツボランティア活動が大切であることの理解を深め、協力や協調ができる人間関係を築けるように工夫されている。</p> |                           |
| <p>資 料</p>          | <p>○イラストや写真は生徒の学習意欲を喚起したり、興味関心を引いたりするようなものに厳選されている。また、グラフや表は正確性に万全を期するとともに、生徒が視覚的にとらえやすいように工夫されている。</p> <p>○本文と資料が左右のページで分けられているため、本文の内容を学習してから資料を参照したり、先に資料から考察・推測を行ってから知識の習得を図ったりと、授業展開の工夫をすることができるようになっている。</p>  |                           |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○記号やマークは生徒の発達段階に応じて、興味関心を引き理解を助けることができ、マークの名称も添えて内容がわかるようにしている。</p> <p>○読みやすい、見やすい紙面となるように本文と資料ページを明確に分けている。読みやすい位置での改行をしている。</p>  |                           |
| <p>総 括</p>          | <p>○各章末には保健の「見方・考え方」を働かせて思考を深める問いが設けられている。記述欄が広く、表現力も高められるように工夫されている。</p> <p>○学習内容がまとめられている本文と、知識を深めるための資料がわかりやすく配置されており、知識及び技能の定着を図るための工夫がされている。</p> <p>○協調学習の場面設定等、主体的に学習を進めることができ、他教科、家庭・地域とのつながりが示され、系統的な学びができるように工夫されている。</p>  |                           |



種目（ 保健体育 ）

|                     |  |                            |
|---------------------|--|----------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>最新 中学校保健体育</p>  | <p>50</p> <hr/> <p>大修館</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○「学習のまとめ」「章のまとめ」で、学習した知識や技能を確認することができるようになってきている。体を動かして身に付ける内容が「実習」として示されており、写真とイラストでわかりやすく解説されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○本時の「学習のまとめ」では、学習したことをもとに考えて話し合う活動が設けられている。「章のまとめ」には、「思考・判断・表現の問題」があり、考えをまとめ、記述することができるようになってきている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○各章の最後には知識・技能の確認、思考力・判断力・表現力の育成、生活への応用、学習の振り返りができるよう工夫されている。また生徒に興味・関心のある運動・スポーツに関する話題や、健康課題が取り上げられている。</p> <p>&lt;生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成するための工夫&gt;</p> <p>○運動には多様な関わり方や楽しみ方があり、興味関心や能力に応じた運動が示され、日常の運動量の資料から健康の保持増進の実践が推奨されている。</p> |                            |
| <p>資 料</p>          | <p>○実際に体を動かして身に付ける内容を「実習」として設定し、写真とイラストでわかりやすく解説する工夫がされている。また、読むべき本文と資料を明確に区別して、紙面を構成する等の工夫がされている。</p> <p>○各項目が「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」で構成され、学びを深めることができるように工夫されている。グループで話し合ったり発表し合ったりする活動が数多く設けられている。</p>  |                            |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○書体や色がとても見やすく、イラストのデザインも工夫され脚注、注釈によって理解を助ける配慮がされている。</p> <p>○本文と資料を明確に区別した紙面構成になっている。資料は、目盛や罫線を見やすくしている。</p>  |                            |
| <p>総 括</p>          | <p>○学習内容を実生活と結び付け、自分の知識をもとに理解を深める工夫がされている。効果的なイラストで常に興味関心を引き付ける設計となっている。</p> <p>○知識や考えをまとめて発表する活動も多く設定され、思考力、判断力、表現力等を育成することができるように工夫されている。</p> <p>○「章のまとめ」には「知識・技能の確認問題」「思考・判断・表現の問題」や課題を発見する設問があり、生徒の資質・能力を育成する工夫がされている。</p>   |                            |

種目（ 保健体育 ）

|                     |  |                             |
|---------------------|--|-----------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>中学校保健体育</p>   | <p>224</p> <hr/> <p>学 研</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <p>○各項目の最後に「まとめる・深める」または「実習」を設け、本時で学習したことを振り返って考えさせたり確認させたりすることができる。技能の学習ではイラストや写真を多く掲載し、わかりやすいように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○「話し合う」「表現する」など、考えて伝え合う活動が設けられている。また、「章のまとめ」には、「生かそう」「生活の活用」を設け、身に付けた知識をもとに考え、記述することができるようになっている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○章末に「探求しようよ！」を設け、学習内容に関係が深い興味を持ちやすい課題を取り上げている。口絵6「行って、見て、学ぼう」では学校や地域の実態に応じた指導ができ、デジタル教材での学習を深める工夫がされている。</p> <p>＜生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○学習を通してかけがえのない自分に気付き、他者を尊重する態度を養える工夫と、助け合い支えあうことが必要であることに気付く工夫がされている。</p> |                             |
| <p>資 料</p>          | <p>○各単元の「課題をつかむ」ではイラストや写真を効果的に配置し興味を引き付ける工夫がなされている。身に付けるべき技能にはマークを付しイラストや写真を多く掲載し、わかりやすく取り組みやすいように工夫されている。</p> <p>○「学習の目標」「課題をつかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」の流れで、課題解決的な学習が進められるように工夫されている。また、随所に「見方・考え方」につながる視点が示されている。</p>   |                             |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○文章の表記表現は生徒に無理なく理解できる簡潔で平易なものに工夫されている。本文では重要語句をゴシック体太字で表記する工夫がされている。</p> <p>○ユニバーサルデザインの考えに基づき、配色や色、フォント、紙色、表現などを誰もが見やすく、わかりやくなるようにしている。</p>  |                             |
| <p>総 括</p>          | <p>○1時間の学習の流れが統一され、生徒が見通しを持ちながら課題解決的な学習に取り組むことができ、知識が定着するよう構成が工夫されている。</p> <p>○学習課題に「見方・考え方」の視点が示され、自分の生活や知識と結び付けて思考・判断することができるようになっている。</p> <p>○詳しい資料や探求的な学習活動例が掲載されており、生徒の実態に応じてより深い学びを促すことができるように工夫されている。</p>   |                             |

種目（技術・家庭 技術分野）

|                  |   |                 |
|------------------|---|-----------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>新しい技術・家庭 技術分野<br/>未来を創るTechnology</p>  | <p>2<br/>東書</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>                 ○動画、シミュレーションソフト、ウェブサイトや他教科との関連等、QRコードから閲覧できるコンテンツが豊富であり、家庭学習にも活用できる。<br/>                 ○他のページと関連する部分を「リンク」と表記し、知識・技能をより定着させるよう工夫されている。<br/>                 ○問題解決に取り組むための技能をTECH Labとして、まとめて掲載している。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>                 ○思考ツールを活用しながら問題解決の流れを丁寧に示すとともに、学習の進め方、学び方を分かり易く示している。<br/>                 ○実習例では、材料の寸法や製作の流れだけでなく、どのような問題発見・課題設定から製作が始まったのかを記し、学びを支援している。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>                 ○技術の時間での学習内容と他教科での学習内容とのつながりが見え易く、様々な知識等を関連付けて考えることができる。<br/>                 ○技術の匠として、社会（職業）における技術による問題解決の工夫や技術に対する思いを掲載し、学習内容と社会の関連を意識できるようにしている。<br/>                 ○製作品の知識・技能のみに視点を置くのではなく、見方・考え方の評価にも重点を置いている。</p> <p>&lt;技術の見方・考え方を働かせながら学習するための工夫&gt;<br/>                 ○興味・関心をもって「技術の見方・考え方」とは何かを捉えられるよう、ガイダンスに「最適化の窓」として具体例を示している。<br/>                 ○見方・考え方をスモールステップで確認できる内容が散りばめられている。<br/>                 ○技術の学習をどのような視点で進めていくのかを絵・図・漫画形式で明記し、見方・考え方を高めるような工夫がなされている。</p> |                 |
| <p>資 料</p>       | <p>○ページをめくる方向と同じ左から右へと読み進められるようレイアウトが工夫されている。<br/>                 ○各節で、「目標」、「キーワード」が示され、習得すべき資質・能力が明らかであり、学習の見通しを立て易い。<br/>                 ○「問題解決例」がそれぞれ1ページに同じレイアウトでまとめられており、機能や工夫を比較し易い。</p>  |                 |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○彩度を落とし、色覚の特性に関わらず、見やすい紙面である。<br/>                 ○工具を使う場面では図を大きく表示され、作業者の手元が分かり易い。<br/>                 ○興味・関心を高めるため、キャラクターや漫画の形式で表現した箇所がある。<br/>                 ○カラーバリアフリーの観点から、配色とデザインを工夫し、色情報だけでなく、模様や記号でも識別できるようになっている。</p>   |                 |
| <p>総 括</p>       | <p>○技術の見方・考え方、技術の最適化について一目で分かるようなページに始まり、導入からまとめまで、技術の見方・考え方を意識したストーリー性のある構成になっている。<br/>                 ○実習した製作品を基本に社会へと広げるような進め方をしているため、学習の成果を社会に関連付け易い。将来にわたり、見方・考え方を働かせて生き抜くことができるように工夫されている。</p>   |                 |

種目（技術・家庭 技術分野）

|                  |  |                  |
|------------------|--|------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>New技術・家庭 技術分野<br/>明日を創造する</p>   | <p>6<br/>教 図</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞<br/>                 ○別冊のハンドブック1冊に実習の基礎技能をまとめており、教科書よりも詳細である。家庭に持ち帰り、学習できる。<br/>                 ○設計の勘所、技能チェック、間引く苗の見分け方等、実習の際に判断に悩んだり失敗に繋がりそうだったりすることを予め確認し易くなっている。<br/>                 ○QRコードがあることで、知識・技能をさらに育み、学習を補助することができる。<br/>                 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞<br/>                 ○育成計画表の例を複数表記している。学校の設備状況等に応じて参考できるため、指導し易やすく工夫されている。<br/>                 ○課題を具体的に解決するための設計図や栽培計画の書き方が具体的に表記されているので、思考を整理して授業に臨むことができる。<br/>                 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞<br/>                 ○伝統技術や日本の文化について考えられるコラムを多数設け、学習への興味・関心をもたせるようにしている。<br/>                 ○未来の社会像「Society 5.0」やSDGsを取り上げ、学習したことが何に繋がっていくのかを示している。<br/>                 ○学びが広く生かされるように、社会問題や環境問題等、実際に起きている事象に焦点を当て、深めようとしている。<br/>                 ＜技術の見方・考え方を働かせながら学習するための工夫＞<br/>                 ○社会で活躍する人々を紹介するコラムで、技術に携わる人たちからどのように技術の見方・考え方を働かせながら社会と関わっているかを学べる。<br/>                 ○技術のプラス面、マイナス面を取り上げ、学びを深め、生かそうとしている。<br/>                 ○ペットボトルを例に取り、身近な技術の工夫や開発者の工夫に気付かせるようにしている。</p> |                  |
| <p>資 料</p>       | <p>○別冊のハンドブックは、工具の安全な操作方法等を実習中に手軽に確認することができるようになっている。<br/>                 ○各編の設計計画表が切り取り式のワークシートとして巻末に設けられており、そのまま活用することができる。<br/>                 ○すべての内容で1章、2章、3章という共通の構成がなされており、資質・能力の3つの柱と対応しながら学習の見通しを立て易くしている。</p>  |                  |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○UDフォントを用い、文字のサイズが大きく、見易い。<br/>                 ○重要語句が青太字で、本文を補足する資料マークが黄で、視認し易い。<br/>                 ○作業工程の写真が大きくて見易い。<br/>                 ○本文の多くが3文程度で書かれていて読み易く、また、理解しやすいように工夫されている。</p>   |                  |
| <p>総 括</p>       | <p>○リンクマークを設けるなど、他教科や小中高との関係を意識した学習内容を示したり、別冊でハンドブックにまとめたりするなど、知識と技能をそれぞれ定着させるための工夫がなされている。<br/>                 ○生徒が興味・関心をもちながら、主体的に学習に取り組むことができるように、科学的な原理・法則だけでなく、伝統文化・未来の社会像・地域の産業に関連するコラム等も掲載している。</p>  |                  |

種目（技術・家庭 技術分野）

|                  |  |                  |
|------------------|--|------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>技術・家庭 技術分野<br/>テクノロジーに希望をのせて</p>  | <p>9<br/>開隆堂</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>                 ○科学的な根拠から実践的な技能の解説という流れになっているため、知識・技能を身に付けやすい。<br/>                 ○QRコードによる動画解説が豊富で、動画自体も分かり易くポイント毎に細かく分かれている。<br/>                 ○巻末資料でプログラミングを扱っているが、特に、スクラッチの説明が詳しく書かれており、様々なレベルに応じた資料構成である。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>                 ○実習例を「身近な問題の発見」、「課題の設定」、「設計・製作」、「評価・改善」と見開きで示し、ものづくりの手順とアイデアのまとめ方等も示している。<br/>                 ○製作時に学習したことが社会の中ではどのように活用されているかが示されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>                 ○課題の設定において、設計段階で製作の目的、付加価値について触れながら、製作後の評価・改善まで流れに沿って示されている。<br/>                 ○各内容の「学習のまとめ」には、学びを深める工夫として、技術に求められる誠実さとは何かを考えるコラムが設けられている。<br/>                 ○PDCAサイクルを各分野の評価場面で取り上げ、学習を実生活で活用するような工夫がある。</p> <p>&lt;技術の見方・考え方を働かせながら学習するための工夫&gt;<br/>                 ○各内容とも「問題の発見・課題の設定」、「条件の制約」、「考案、改善の過程と成果」と統一された示し方で振り返ることができるようになっている。<br/>                 ○身近にある製品を例えに、「工夫」「技術のしくみ」「科学的な原理・法則」に分けて考え易く示している。<br/>                 ○トレードオフという言葉を用いて、見方・考え方に深みをもたせている。</p> |                  |
| <p>資 料</p>       | <p>○各学習項目では、基本的に見開きでまとめ、完結させている。特に実習例などのページでは内容を見渡すことができるように配置されている。<br/>                 ○各ページの豆知識で、生徒が関心・意欲をもって知識を習得できるよう工夫されている。<br/>                 ○作者のインタビューを載せ、どのような意図で設計・製作したか、教科書のどの内容と関連しているのかが分かるようになっている。</p>   |                  |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○UDフォントを使用し、配色はUDの視点から、項目毎に統一されている。<br/>                 ○身近にある製品の仕組みを分かり易く図解している。<br/>                 ○各章、各節に目標が示され、生徒の理解を高める工夫がなされている。<br/>                 ○写真や図を用いるときはダイナミックに大きく示すことが多く、興味をひくようなレイアウトである。</p>  |                  |
| <p>総 括</p>       | <p>○各内容が「技術の見方・考え方」に「気づき」→「はたらかせ」→「定着させる」の順で構成され、各段階とも生徒の興味・関心・意欲を高めながら、問題解決的な学習が系統的に進められる。<br/>                 ○トレードオフや技術の最適化といった技術の授業で学んだことがどのように社会に繋がっていくかを企業での事例や、プログラミングやSDGs等、現代的な話題についても触れながら、学習に取り組めるよう工夫されている。</p>   |                  |

種目（技術・家庭 家庭分野）

|                  |   |                 |
|------------------|---|-----------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>新しい技術・家庭 家庭分野<br/>自立と共生を目指して</p>   | <p>2<br/>東書</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>                 ○実習や生活の中で必要な基礎技能をまとめた「いつも確かめよう」や各編末の「学習のまとめ」により、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図っている。<br/>                 ○実感の伴う実物大写真やイラストが豊富に掲載されており、視覚的・感覚的に学ぶことができる。<br/>                 ○調理実習の手順が大きな写真とともに横の流れで示され、調理過程の食品の変化を科学的に理解することができる。<br/>                 &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>                 ○様々な場面で思考ツールの例を示し、それを活用することで対話を助けて協働を促し、深い学びの実現を図っている。<br/>                 ○生活の中から課題を見付け、実践を通して解決し、解決したことを生活に生かしていくという問題解決的な学習過程を分かり易く示している。<br/>                 &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>                 ○「プロに聞く！」は栄養士、建築家、染織職人、保育士、消費生活アドバイザー等プロからのメッセージを紹介し、職業観・勤労観の育成を図っている。<br/>                 ○QRコードから調理の手順等を動画で見ることができ、自主学习等に活用することができる。<br/>                 ○写真やイラストに描かれている男女の比率や役割に偏りがないように配慮されている。<br/>                 &lt;実践的・体験的な学習活動の工夫&gt;<br/>                 ○調理実習や布を用いた製作では、題材例が写真とともに充実しており、実践的・体験的に学習できる。また、家庭での自主学习にも活用できる。<br/>                 ○無料アプリ「教科書AR」を活用すると、衣服を試着しているような体験等、楽しみながら体験的な学習を行うことができる。</p> |                 |
| <p>資 料</p>       | <p>○食品群毎の食材や、幼児が使用する小物の実物大写真を掲載し、学習意欲を高め、分かり易く実感をもって学び、生活に直結し易いよう工夫されている。<br/>                 ○レポートやポスター、手紙の例等が充実しており、生徒が学習活動に取り組む際の参考となる。<br/>                 ○基本的なルールやマナー等に係る内容に「マナーマーク」を付し、他者を思いやり、人権を尊重する態度を身に付けさせるよう注意喚起している。</p>  |                 |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○UDフォントを使用し、カラーバリアフリーの観点も取り入れている。<br/>                 ○小学校での既習事項や他教科との関連に係るマークが随所に示している。<br/>                 ○共生や人権上の配慮を取り入れる等、様々な視点から配慮されている。<br/>                 ○様々なマークやアイコンにより分かり易い。また、キャラクターを用いることで、関心・意欲をもって学習できるようにしている。</p>   |                 |
| <p>総 括</p>       | <p>○「導入」「展開」「まとめ」の構成になっており、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。<br/>                 ○環境、消費者、伝統文化、防災、情報モラル等、現代的な課題を豊富に取り扱っている。<br/>                 ○各編の冒頭に「生活の営みに係る見方・考え方の例」がイラストで示され、よりよい生活を創ろうとする態度を身に付けようとしている。</p>   |                 |

種目 （ 技術・家庭 家庭分野 ）

|                     |   |                           |
|---------------------|---|---------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>New 技術・家庭 家庭分野</p> <p>くらしを創造する</p>   | <p>6</p> <hr/> <p>教 図</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○注意点やマナー、作業のポイントや具体的な例等を写真やイラストを豊富に用いて、基礎的・基本的な知識を分かり易く習得できるようにしている。</li> <li>○食材の切り方等について原寸大の写真を使用することにより、実感を伴う学習活動が展開できる。</li> <li>○各章末にある「学習の振り返り」を活用することで、知識・技能の習得を確認することができる。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「見つめる」で生活の中の疑問や課題について考えさせたり、「考えてみよう」で対話的な学びを取り入れたりして、思考力・判断力・表現力を培う。</li> <li>○生徒が自分の課題を設定するための手助けとなる「課題設定のヒント」や「私の課題例」が示されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「考えてみよう」、「話し合ってみよう」では、身近な課題について話し合う機会を設けることで、自ら学びに向かう力を育成できる。</li> <li>○問題解決的な学習の例が統一したステップで掲載されており、生徒が主体的に学ぶことができるよう工夫されている。</li> <li>○生徒が進路や将来を考えるきっかけになるように、各章末に「センパイに聞こう！」のコーナーが設けられている。</li> </ul> <p>&lt;実践的・体験的な学習活動の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調理実習や布を用いた製作では、豊富な実習題材が掲載されており、実態に合わせて学習活動を取り入れることができる。</li> <li>○献立を考えるための実用的な付録シールにより、より充実した実践的・体験的な学習活動ができる。</li> </ul> |                           |
| <p>資 料</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な具体例をイラストや写真等で示し、生徒が近い将来経験する消費生活等について興味・関心をもつことができるようにしている。</li> <li>○食品群毎の実物大の写真や色分けされた食品成分表等、視覚的に分かり易い資料が掲載されている。</li> <li>○軽くて裏写りしない紙材を使用しており、生徒が直接の書き込みできるよう工夫されている。</li> </ul>   |                           |
| <p>表記・表現</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○UDフォントを使用し、文字そのものやルビが大きく読み易い。</li> <li>○本文の内容を精選し、簡潔な文章と適切な文字量となっている。</li> <li>○重要語句を青太字にして他の文字との差別化を図っている。</li> <li>○食品アレルギーへの対応として複数の代替食品が例示されており、食物アレルギーをもつ生徒も安心して実習に臨むことができる。</li> </ul>  |                           |
| <p>総 括</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○視覚的な資料が豊富であるとともに、統一された学習展開により、実践的・体験的に知識・技能を身に付けることができる。</li> <li>○自主及び自立の精神を養えるよう、生徒が主体的・対話的に取り組めるワークシートが充実している。</li> <li>○環境保全、国際化、少子高齢化、消費生活の変化等、現代的な課題に主体的に対応する力を育むようにしている。</li> </ul>  |                           |

種目（技術・家庭 家庭分野）

|                  |  |                  |
|------------------|--|------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>技術・家庭 家庭分野<br/>生活の土台 自立と共生</p>  | <p>9<br/>開隆堂</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>                 ○「memo」「参考」が随所に、「豆知識」がほぼ全ページに掲載されており、知識の習得に役立つよう工夫されている。<br/>                 ○QRコードによる動画解説が豊富で、動画自体も分かりやすくポイント毎に細かく分かれている。調理や裁縫等の基礎的な技能を習得する手助けになる。<br/>                 ○実習のページはプロセスが横流れのレイアウトで統一されており、写真や図を大きく示して実習のイメージを持ちやすくしている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>                 ○「振り返り」や「学習のまとめ」では、記述式で書かせることで思考力・判断力・表現力の向上を図っている。<br/>                 ○学習過程が「主体的」「対話的」「深い学び」のステップに統一され、教科書を進めることでアクティブ・ラーニングが実現されるようになっている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>                 ○「先輩からのエール」は主に家庭分野に関する人たちからのメッセージで、生徒の学習意欲を高めたり、キャリア教育に繋げたりすることができる。<br/>                 ○「生活の課題と実践」には多くの実践例や進め方の詳細な解説が示され、生徒が自分で課題を設定して取り組むことができる。<br/>                 ○他者と共生する力を養うため、クラスメイト、家族、幼児、高齢者、障害のある人、在日外国人等、様々な人との関わりの内容が掲載されている。</p> <p>&lt;実践的・体験的な学習活動の工夫&gt;<br/>                 ○「やってみよう」では、ロールプレイングや介助体験等、実践的・体験的な学習活動の例を示している。<br/>                 ○伝統文化を充実させ、さらに伝統遊びや昔の暮らしを取り上げることで、生活と伝統文化との深い関わりを理解し、実践できる。</p> |                  |
| <p>資 料</p>       | <p>○職業観を養い、社会に目を向けられるよう、実際に働いている人からのメッセージを随所に掲載している。<br/>                 ○男女が協力して支える社会を目指す男女共同参画社会の重要性を示している。また、図・写真・イラスト等を中心に、公平な配慮がなされている。<br/>                 ○食品群毎の実物大の食材例や弁当等、インパクトのある写真を用いることで、学習意欲を高め、実生活に結び付け易いよう工夫されている。</p>  |                  |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○UDフォントを使用し、配色はUDの視点から、項目毎に統一されている。<br/>                 ○イラストや写真等で多彩な事例を示し、幅広い教養を身に付けられる。<br/>                 ○爪見出しに各内容に関わるマークがあることで、興味を引きつける。<br/>                 ○様々なマークやアイコンを用いているため分かりやすく、キャラクターを用いることで関心・意欲をもって学習できる。</p>   |                  |
| <p>総 括</p>       | <p>○身近な例で導入し、学習意欲を喚起している。また、学習過程が各内容で共通しており、生徒の興味・関心を高めて学習課題に取り組ませることができる。<br/>                 ○小学校での既習事項や他教科との関連等が示されており、系統立てて学ぶことができる。<br/>                 ○家族や隣人、学校の教員等、自分が多くの人々に支えられていることを理解できるよう、多くの事例が紹介されている。</p>   |                  |



種目（英語）

|                  |  |                 |
|------------------|--|-----------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>NEW HORIZON English Course</p>  | <p>2<br/>東書</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;<br/>                 ○Unit扉では新出文法を音声で導入し、Previewの映像を見ることで文法を使う目的・場面・状況が理解しやすい作りになっている。<br/>                 ○Let's シリーズでは、各技能領域に特化した活動を行い、目的・場面・状況に合わせたコミュニケーション能力を伸ばせる構成となっている。<br/>                 &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;<br/>                 ○読み解く力を鍛えるために、RetellingやRound形式の読み物が充実しており、実際のコミュニケーション場面にあわせた自己表現が実現できる。<br/>                 ○Stage Activityはこれまでに学んできたことを活用しながらテーマに沿って自分自身の表現し、伝える力を向上させるよう工夫されている。<br/>                 &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;<br/>                 ○SDGs 対応のトピック、生徒が知りたい・読みたいと思える資料が吟味精選され、グラフなどの統計資料が多く使用されている。<br/>                 ○巻末のCan doリストにはCHECK欄があり、最初に提示されたGOALに到達できたかを4段階で自己評価でき復習して定着させるための意欲付けとなる。<br/>                 &lt;小・中学校の接続を重視するとともに、学びの連続性を意識した指導をするための工夫&gt;<br/>                 ○小学校の表現をUnit 1～5 で扱い、小学校で十分慣れ親しんだ表現を音から文字へつなげ、文法として整理し直す工夫がある。<br/>                 ○巻末のCan doリストは、小中高接続を視野にいれた内容で、学びの方向性が明確になっている。小学校と同じテーマが3年間通して取り上げられている。</p> |                 |
| <p>資 料</p>       | <p>○小学校で学習した単語や他教科との関連などがアイコンで明示され、多面的に学べるよう配慮されている。<br/>                 ○英語を学習する中でポイントとなる「単語の覚え方」「音読の仕方」「意見の述べ方」などが各Unitの間に掲載されている。<br/>                 ○QRコードがあることで、音を確認して音読をすることができ、家庭学習への配慮がなされている。</p>  |                 |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○紙面上のデザインや統一されたレイアウトで学習の見通しが立てやすく、小学校の語句については別で記載され、学習者が振り返りを行いやすくなるよう工夫されている。<br/>                 ○書きやすい4線とUD書体が採用され、New Words に地色が敷かれ、本文と区別がしやすい作りになっている。</p>  |                 |
| <p>総 括</p>       | <p>○学び方・表現・語彙の扱い・文字指導・テーマ等について小中接続を意識し、学習指導要領の目標の中の「見方・考え方」に着目し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげられる構成となっている。音から文字への課程が丁寧に踏まれている。他教科の内容を学ぶページや図表を含む教材が豊富で、多彩な文章形式で読む力が育てられる。丁寧な文法説明 Grammar for Communication もあり自律学習が促される作りである。</p>   |                 |

種目（英語）

|                     |   |                           |
|---------------------|---|---------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>SUNSHINE ENGLISH COURSE</p>  | <p>9</p> <hr/> <p>開隆堂</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○新出文法の導入は漫画形式が取り入れられ、使用場面がわかりやすい。単元の始めに基本文がまとめてあり関連性の強い言語材料をまとめて学ぶことができる。プログラムごとに配置された英語のしくみにおいて、その課で学習した文法を振り返ることができ、基礎の定着に向けて工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○毎回のプログラム(1年Program 9～)にRetellがあり、自分の言葉で表現する力が身につく、主体的かつ対話的な学びができるような構成となっている。</p> <p>○学年が上がるにつれて、関心のある話題、日常的な話題、社会的な話題の順に計画され、4技能5領域の能力を総合的に扱い、表現力の育成につながっている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○Interactのページでは、それまで学んだ新出言語材料を使って自然で実践的なやりとりができるよう配慮され、生徒に自信をもたせることができる。</p> <p>○各学期に1回Our Projectでのパフォーマンス活動が計画されており、それを目指して各Programが展開され、学習が主体的に進められる構成である。</p> <p>&lt;小・中学校の接続を重視するとともに、学びの連続性を意識した指導をするための工夫&gt;</p> <p>○各単元Scenesでは、自己紹介や相手とのやりとりの視点で、場面シラバスで学んできた小学校との接続が意識されている。</p> <p>○Stepsは1学年・やりとりの視点、2学年・情報をまとめ主張する視点、3学年・ディベート等で活用する視点から構成され、学びの連続性が意識されている。</p> |                           |
| <p>資 料</p>          | <p>○Readingでは、Gon, the little fox, Visas of Hopeなど、小学校国語や道徳でも学んだ題材の読み物が吟味使用されている。</p> <p>○Word Webでは、既習語いをスパイラルに学べるように、またカテゴリーで提示して語彙を増やせるように配慮がなされている。</p> <p>○各学年巻末に36種のaction cardが付いており、帯活動等の継続的な活動や授業内のゲーム等で使用できる。</p>   |                           |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○1年1学期は手書きに近いフォント、大きな文字が採用されている。また、小学校で学んだ単語が1年教科書巻末資料にあり振り返ることができ、小中接続への配慮がなされている。</p> <p>○識別しづらい色使いが避けられ、プログラム内のレイアウトも統一されているため見やすい。</p>   |                           |
| <p>総 括</p>          | <p>○各プログラムの扉に目標があり、学習者が目標を明確にして学習を進めることができる。漫画形式でストーリー仕立てになった基本文がまとまって導入され、英語の使用場面がわかりやすく、活用しやすくなっている。また、社会的な場面で自分の言葉として英語を使うことに向けて3年間で段階的に内容が構成され、3年間を見通した学習ができる。ペアやグループで行う活動が豊富で目的と相手を意識した活動が行われるように工夫されている。</p>  |                           |

種目（英語）

|                     |  |                      |
|---------------------|--|----------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>NEW CROWN English Series</p>  | <p>15</p> <p>三省堂</p> |
| <p>内容</p>           | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○言語材料を身につけるGET、それらを活用して言語活動に取り組むUSEがレッスンごとに構成されている。特にDrillでは指示された絵と語句を参考に繰り返し練習をする内容が豊富で、基本的な知識と活用する技能を確実に身につけられる工夫がされている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○USEやProject活動を通して、自分の考えや気持ちなどを整理し、話したり、まとまりのある内容を書き、思考力、判断力等を育成する構成となっている。</p> <p>○GETで新出文法を習得し、USEで実践的なコミュニケーション力を養うレッスン構成で5領域のバランスに配慮し、充実した言語活動が用意されている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○「言葉を使う」「かかわる」「考える」「学ぶ」を通して、深い学びや豊かな人間性が育成されるよう題材が選ばれている。</p> <p>○各Lessonの扉では本文の要点が示され、生徒が学習の見通しを持てるだけでなく、自分自身の考えや意見を述べさせる工夫がなされている。</p> <p>&lt;小・中学校の接続を重視するとともに、学びの連続性を意識した指導をするための工夫&gt;</p> <p>○1年Lesson1～3は、小学校で体験した場面や似た状況の中での対話や発表について音声、文字、まとまった英文を書くの順で丁寧な接続がなされている。</p> <p>○Project活動では、2・3年最後のディスカッションに向けた流れが計画されているので、先を見通した指導をすることができる。</p> |                      |
| <p>資料</p>           | <p>○巻末付録には読み物、基本文のまとめ、内容豊富なジャンル別単語、会話を進める表現などがあり、表現活動において利便性が高い。</p> <p>○Pointのスペースが全学年統一して左側ページの下段に大きくレイアウトされているので、ターゲットの英文が分かりやすい。</p> <p>○QRコードがあることで、生徒は音を確認して音読をすることができ、生徒の学習を支援する工夫がなされている。</p>  |                      |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○学習する内容がパターン化され見やすい。1年時の大きなフォントの活用や全学年通して色分けがなされ、生徒が学習しやすくなるよう、紙面づくりでの工夫がなされている。</p> <p>○2学年から発音記号の記載がある。USE(Read)では語句に日本語訳を付けているため、読むことに集中しやすい工夫がされている。</p>  |                      |
| <p>総括</p>           | <p>○①とびら ②GET ③USE ④文法のまとめの順で学びのプロセスが見える化されている。レッスン構成が習得から活用へとスムーズにつながっており、身に付けた文法や文構造、単語などが、自分の意見を話すこと、書くことへの表現活動に生かせるようになっている。1.2年で多くの言語材料を扱うことで3年時のディスカッションにつながるよう工夫されている。そこで付録には補充の読み物やカテゴリーごとに提示された語句などが豊富である。</p>  |                      |

種目（英語）

|                     |  |                           |
|---------------------|--|---------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>ONE WORLD English Course</p>  | <p>17</p> <hr/> <p>教出</p> |
| <p>内容</p>           | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○3つに分けられたPartごとに、言語材料の基本の定着を図るよう構成されている。その後Reviewで全体の内容や語彙を確認し、Taskで異なる場面で使われる英語に触れる作りになっている。最後にレッスンごとの文構造を理解する流れになっていて何度も教科書を見返しながら学習する工夫がある。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○Tipsという技能ごと（話す・聞く・読む・書く）の学習ページが準備されている。これらを通して、思考力、判断力、表現力を養えるよう工夫されている。</p> <p>○Project活動が年に3回ある。Lessonで積み上げてきた基礎的・基本的な知識や技能を、総合的・統一的に活用し、深い学びへとつなげている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○巻末にCan-doの自己チェックリストがあり、目標に照らし合わせて自己評価し、振り返りと見通しが持てるだけでなく、関連箇所に戻って学習しやすい。</p> <p>○自律学習のためのTipsが多く取り扱われており、自律学習を促すだけでなく言語や文化についての幅広い知識の獲得が期待できる。</p> <p>&lt;小・中学校の接続を重視するとともに、学びの連続性を意識した指導をするための工夫&gt;</p> <p>○1年のSpringboardは、すごろく以外は音声のみの活動内容になっている。また、小学校で十分に慣れ親しんだ表現を文字へとつなげている。</p> <p>○小学校の国語や道徳で扱った題材が取り入れられ、生徒の興味関心を引きつける作りになっている。</p> |                           |
| <p>資料</p>           | <p>○全学年、巻末に赤色マスキングシートを使って取り組めるActivity Plusコーナーがあり、Lessonの学習中に並行して行うことで表現力をさらに磨ける。</p> <p>○1年の自己紹介で使えるカードや2・3学年のTipsでのコミュニケーション活動で使えるカードが巻末にあり、ミシン目の切り取り線が入り使いやすい。</p> <p>○教科書のはじめに「主人公はみなさんと同じ年齢」と書かれてあるとおり、登場人物の顔や服装が中学生っぽく、とてもリアルで、親しみ感がある。</p>   |                           |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○ユニバーサルデザインへの配慮（判読しやすい配色、レイアウト、表現方法、文字などの工夫）や特別支援教育への配慮（全体を通しての統一感や一体感、読みやすさ、わかりやすさを意識したレイアウト、色づかい）がなされている。</p> <p>○見開きページと統一されたレイアウト、巻末資料に発音記号が記載されているため見やすい紙面になっている。</p>  |                           |
| <p>総括</p>           | <p>○それぞれLessonがPart 1～3に分かれており、その後全体についての学習をすることで、ステップアップしながら学習が進められるようになっている。また、LessonとLessonの間に配置されたTipsやUseful Expressionsで英語学習のコツや特定の場面での表現が学べるようになっており、より豊かな知識が身につくよう配慮されている。また、Activity Plusでは基本文を覚え、即興につなげる工夫がされており、幅広い生徒の学力に配慮されている。</p>   |                           |

種目（英語）

|                     |  |                           |
|---------------------|--|---------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>Here we go ! ENGLISH COURSE</p>   | <p>38</p> <hr/> <p>光村</p> |
| <p>内容</p>           | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○Unit本文の登場人物のストーリー性が高く、言語を使う目的・場面・状況が学習者にとって明確である。Unitは音声から導入し、言語活動は聞くこと、話すこと、書くことにスムーズにつながるよう工夫されている。またその後のGoalにおいて統合的な活動をして定着が図れるよう工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○各UnitやLet's readにThinkが用意されている。聞く・話す活動の後に考える活動を入れることで、思考力などを養えるよう工夫されている。</p> <p>○Story Retellingの活動を通して、教科書で学習した表現を自分の言葉として考えて繰り返すことで、学んだ文法や表現を定着する効果がある。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○教科書がストーリー仕立てになっているので、「自分だったらこうする」「こう考える」という姿勢を培うことができる。</p> <p>○英語の学び方ガイドやYour coachが全学年に掲載されており、生徒が自分で学習できるように道筋が示されているので学習の自律につながる。</p> <p>&lt;小・中学校の接続を重視するとともに、学びの連続性を意識した指導をするための工夫&gt;</p> <p>○小学校と同じく見開き2ページの扉で音声から徐々に文字に慣れる構成で、2年生以降はまとまった文章を読む回数が確保され高校への接続の工夫がある</p> <p>○You Can Do It! は年に3回あり、複数の技能を使ったグループでの協働学習を通して、主体的に考え、表現する力が身につく構成となっている。</p> |                           |
| <p>資料</p>           | <p>○QRコードがあることで、全Unitの本文アニメーション動画が見られ、家庭学習で音を確認して、音読をすることができる。</p> <p>○全学年の巻末にLet's talkがあり、即興的なコミュニケーション力を学習段階に合わせて学習できる。紙質やサイズを変えて、帯活動で使用しやすい。</p> <p>○巻末にStory Retellingがあり、学習のまとめや毎日の授業の帯学習で使えるようになっており、使いやすい。</p>   |                           |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○色覚特性や全ての人使いやすいユニバーサルデザイン等の観点に立った編修とデザイン等の特別支援教育への配慮やUDフォントの書体を使用する等の学習上の配慮がなされている。</p> <p>○1年1学期は漫画形式が採用され親しみやすい。また、統一されたレイアウトで迷わず学習することができる。</p>  |                           |
| <p>総括</p>           | <p>○多様な題材がグローバルな見方・考え方を育成することにつながっている。登場人物の成長とともに共感しやすい内容で、英語を使う目的・場面・状況が揃っており、生徒の学ぶ意欲が高まると共に、より日常に近い表現で言葉を身につけやすくなっている。また導入の音声、リテリング素材、その他帯活動に活用できる教材が豊富である。ストーリー全体を通じて自分も他者も尊重する大切さを学べる作りになっている。</p>   |                           |

種目（英語）

|                     |   |                      |
|---------------------|---|----------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>BLUE SKY English Course</p>  | <p>61</p> <p>啓林館</p> |
| <p>内容</p>           | <p>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</p> <p>○Unitごとにスモールステップを踏みながら、文法と表現を定着させる構成になっている。扉で扱うテーマの目標を確認し、短い文から少し長い文章へ、そしてテーマについてミニスピーチ等作成へと伝える力を付ける工夫がある。また技能ごと（話す・聞く・読む）の学習ページが準備されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○各Unitの終わりにExpress Yourselfが設けられ、Unitのテーマに沿った文を作ることで、思考力等を養う工夫がなされている。</p> <p>○学期末の学習として、Projectがある。4技能5領域を統合的に活用し、深い学びへとつなげている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○Projectでは、各Unitで積み上げてきた発信力を活用し、より良い文章やスピーチへと導かれるよう配慮されている。</p> <p>○More Informationでは、題材の補足説明や様々な文化の紹介があり、より深い理解と世界や社会についてより多くの事を考える工夫がなされている。</p> <p>&lt;小・中学校の接続を重視するとともに、学びの連続性を意識した指導をするための工夫&gt;</p> <p>○小中高の連携を目指し小中、中高を接続するページが準備され、基礎・基本を定着させ、段階を踏んだ学習により力の向上が図れる流れになっている。</p> <p>○Let's Talk, Let's ListenもUnitのテーマと関連付けてあるので、タイミングよく語いや表現を増やし、学びの連続性を意識した指導が期待できる。</p> |                      |
| <p>資料</p>           | <p>○Unitの題材の半分がSDGs対応になっており、世界で起こっている出来事や問題について考えるきっかけとなる資料が精選されている。</p> <p>○各Unitの扉に全体の目標が明示され、写真等が配置されているため、Unitの学習後に目標が達成されたか、リテリングをしながら確認できる。</p> <p>○各Projectには役に立つ表現集やTool Box、巻末には充実したWord Boxがあり、より豊かな表現活動に役立てることができる。</p>  |                      |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○各ページに英語のつづりと発音記号が細かく掲載されている。また1年生は1年間手書きフォントが使用されていたり、小文字が書きやすい4線が採用されており、生徒が学習しやすいよう工夫されている。</p> <p>○見開きで学習でき、レイアウトが統一されているため学習しやすい。暖かみのある優しい色使いとUDフォントの活用で見やすい教科書になっている。</p>  |                      |
| <p>総括</p>           | <p>○スモールステップを踏みながら学習をすることができる。小中高接続を意識し、基礎基本の定着から発展、自分の考えを伝える活動と段階を踏んだ構成になっているためスムーズな移行が期待できる。丁寧な文法説明、語彙数の多い付録、QRコード、実際の出来事を題材にしたテーマやそれに関する様々な追加情報などが学習者の興味関心を引き出し、自律学習も促す作りになっている。</p>   |                      |

種目（ 道 徳 ）

|                     |  |                           |
|---------------------|--|---------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>新訂 新しい道徳</p>  | <p>2</p> <hr/> <p>東 書</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;道徳科の目標に関わる工夫&gt;</p> <p>○巻頭にオリエンテーション教材があり、授業の流れを体験できる。各教材の冒頭にテーマを示し、その時間で考えることを踏まえたうえで学習を行うため、テーマからそれずに深く考えることができる。主たる設問や自己を見つめる設問を示すことで、段階的に学習が進められるよう工夫されている。</p> <p>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</p> <p>○巻頭に「話し合いの手引き」が示されている。また、話し合いや思考の質を高めるための授業支援ツールが準備されており、より深く考え、活発に議論するための工夫がされている。新聞や漫画などの資料が示され、教材を多面的・多角的に考えるきっかけが提示されている。</p> <p>&lt;情報モラルと現代的な課題に関する題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</p> <p>○「いじめ問題」と「生命尊重」が全学年でユニット化されている。各ユニットが、3つの教材を通してそれぞれのテーマを学習する構成となっており、多面的・多角的に考えるための工夫が盛り込まれている。3年間を通し、発達段階に応じて情報モラル、キャリア、防災、医療など、様々なテーマについて考えることができるように配慮されている。</p> |                           |
| <p>資 料</p>          | <p>○生徒が自分事として考えられるように、学校を舞台にした教材を中心に掲載している。1教材当たりの分量を少なめにし、生徒が、考え、議論する時間を確保できるようにしている。</p> <p>○各都道府県の郷土資料、心情や思考の変化を可視化するための「心情円」、意見を書きとめたり、他者と交流したりするための「ホワイトボード用紙」や、学期ごとの「自己評価用紙」などの多くのツールが準備されている。</p>   |                           |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○本文には、UDフォントを使用したり、文字を大きくしたりし、視認性を高める工夫がされている。難解な語句での表現を避け、読みの負担を軽減する配慮がされている。</p> <p>○内容項目の4つの視点について、マークを色分けして示している。巻頭では内容項目に対応する教材が視点ごとに分類されている。</p>  |                           |
| <p>総 括</p>          | <p>1教材当たりの分量を少なめにし、考え、議論する時間を確保できるようにしている。「いじめ問題」や「生命尊重」については、複数教材を組み合わせたユニット構成とし、重点的に学習に取り組めるよう配慮されている。各教材に「つぶやき」コーナーが設置され、話し合いや振り返りの材料として活用できる。巻末には、切り取ってすぐに使用できる授業支援ツールが用意され、話し合い活動や思考の質を高める工夫がされている。</p>   |                           |

種目（ 道 徳 ）

|                  |   |                   |
|------------------|---|-------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>中学道徳 とびだそう未来へ</p>  | <p>17<br/>教 出</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;道徳科の目標に関わる工夫&gt;<br/>                 ○巻頭に「道徳科で学びを深めるために」のページがあり、各学年の目標に合わせた授業の進め方・考え方が掲載されている。すべての教材に「導入」「学びの道しるべ」が設定され、学習の道筋が明確になっている。見通しをもって学び、道徳的価値にしっかりとせまることができるよう配慮されている。<br/>                 &lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;<br/>                 ○主人公が葛藤する場面で、生徒が考えて書き込みをする欄が多く用意されている。自分の考えを書き表しながら話し合いに参加できるよう工夫されている。年間を通しての学びの記録ができるページがあり、自身の成長を実感しながらさらに考えを深めていくことができる。<br/>                 &lt;情報モラルと現代的な課題に関する題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;<br/>                 ○3年間を通して、いじめや差別の問題をさまざまな側面から考え、深めていくことができる教材を体系的に掲載している。いじめや差別のない社会について重層的に考え、深められるよう工夫されている。解決が難しい課題にも向き合い、よりよいあり方を考え続ける力を育成するよう、生命倫理、情報モラル、社会参画など現代的な課題についても、積極的に取り上げている。</p> |                   |
| <p>資 料</p>       | <p>○学習指導要領の4つの視点の教材が学期ごとに偏らないように配置されている。取り組みやすさや議論する時間の確保を重視し、短い教材や見て分かる教材を積極的に掲載している。<br/>                 ○1時間1教材で、コラムを厳選して掲載し、学習内容を焦点化するとともに、読むことだけでなく、全員が話し合いに参加できる授業にするため、まんが・絵本・歌詞・新聞記事など教材形態が多様である。</p>  |                   |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○カラーユニバーサルデザインや特別支援教育への配慮として、色覚等の特性をふまえた判別しやすい配色や表現方法をしている。教材内容が理解しやすいよう、文章の改行位置を工夫し、文章構成をつかみやすくしている。<br/>                 ○内容項目の4つの視点について、マークを用いて示している。巻末では各視点と内容項目、対応する教材名が一覧で掲載されている。</p>   |                   |
| <p>総 括</p>       | <p>オリジナルキャラクターの紹介で、巻頭に「学びを深めるために」を掲載し、目標に合わせた授業の進め方や考え方を示している。学年ごとの目標が発達段階に応じた言葉で示され、自身と仲間との関わりから、社会とのつながりが考えられるようになっている。「学びの道しるべ」では、教材理解や自我関与、道徳的諸価値の理解を深めるような問いを掲載している。各教材を通して、「何を、どのように考え、話し合っていくのか」を分かりやすく示している。</p>  |                   |



種目（ 道 徳 ）

|                  |   |                  |
|------------------|---|------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>中学道徳<br/>きみが いちばん ひかるとき</p>  | <p>38<br/>光村</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;道徳科の目標に関わる工夫&gt;<br/>                 ○巻頭には学習への見通しや目的意識をもつための手引きがあり、考えを深められるよう配慮されている。教材には中心発問のほかに、めあてに迫るための問いが用意されており、繰り返しめあてについて考えられるよう工夫されている。教材を自分事として考えるための「深めたいむ」が用意されている。<br/>                 &lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;<br/>                 ○今までに学んだことを、自分に引きつけて考えるための精選された2つの発問構成で示され、道徳的な問題が明らかにされている。そのため、生徒が自身の考えをもちやすく、他の生徒とも比較しやすい。自身の考えや議論がより深まる仕組みとなっている。<br/>                 &lt;情報モラルと現代的な課題に関する題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;<br/>                 ○いじめ問題の解決に結び付く教材が、全学年とも学年の前半に配置されている。複数の教材からなる「ユニット」で構成されており、いじめをしない、させない、見過ごさない力が系統的に育成されるように工夫されている。いじめ問題と情報モラルについて、全学年に「深めたいむ」が設けられており、3年間を通してじっくりと考えられるように工夫されている。</p> |                  |
| <p>資 料</p>       | <p>○年間を3つの「シーズン」に区切り、それぞれに生徒の発達段階に応じた学びのテーマを具体的に設定している。「授業開き」や「振り返り」教材によって道徳の学び方や学ぶ意義が明確化されている。<br/>                 ○生徒の学びを考えながら書きおろした作品や描きおろしの絵や迫力のある写真で生徒の感性に訴え、絵本や漫画形式の教材、データや複数の資料から考える教材で、多面的・多角的に考えられる工夫がされている。</p>  |                  |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○カラーユニバーサルデザインへの配慮や、UDフォントの使用により視認性が高い。常用漢字全てに振り仮名を付け、読みやすく配慮されている。また、熟語の混ぜ書きを避け、熟語全体に振り仮名を付けている。<br/>                 ○内容項目の4つの視点について、マークを色分けして示している。巻頭では内容項目が一覧で掲載され、それぞれを平易なキーワードで表現している。</p>   |                  |
| <p>総 括</p>       | <p>学校生活の実態と生徒の成長を考慮し、3年間を見通した構成になっている。1年を3つのシーズンに分け、それぞれに生徒の発達段階をふまえた学びのテーマを設け、効果的な学びが行えるよう工夫している。教材にはめあてや発問などを示した「てびき」が設けられており、教材を通して何を学ぶのかを生徒は意識しやすい。巻末には、変化や成長など自己の変容を実感できる「学びの記録」が用意されており、評価や生徒の振り返りに活用できる。</p>   |                  |

種目（ 道 徳 ）

|                  |   |                      |
|------------------|---|----------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>中学道徳 あすを生きる<br/>中学道徳 あすを生きる 道徳ノート</p>  | <p>1 1 6<br/>目 文</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;道徳科の目標に関わる工夫&gt;<br/>                 ○1時間の学習の流れが、「気づく」「考え、議論する、深める」「見つめる、生かす」の3ステップで可視化されている。体験的な学習の教材についても役割演技などのステップが示され、生徒の感動や共感を呼び、目標にせまるための工夫がされている。学年ごとに系統立てて学べる工夫がある。<br/>                 &lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;<br/>                 ○ねらいにせまるための発問例や、学びを人生に生かすきっかけとなる「自分に+1」が示されている。生徒の豊かな発想にも対応できる、自由記述式の「道徳ノート」があり、授業中の話合いはもとより、考えの更なる深まりが期待できる。家庭との連携も図りやすくなっている。<br/>                 &lt;情報モラルと現代的な課題に関する題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;<br/>                 ○複数の教材とコラムを組み合わせたユニット『「いじめ」と向き合う」を年間に複数配置している。ユニットには、いじめ問題を直接的に扱った教材と間接的に扱った教材があり、総合的に生徒の心を育てられるように配慮されている。情報社会の倫理や情報セキュリティなどに関わる内容については、様々な内容項目の教材から総合的に学習できるように工夫されている。</p> |                      |
| <p>資 料</p>       | <p>○1年間の学習の流れが示されていて、生徒の発達段階や学校の年間行事などを踏まえ、各教材が適切な時期に配置されている。様々な教材・コラムをユニット化し、集中的に学べる工夫がされている。<br/>                 ○主体的・対話的で深い学びを実現するため、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材には、授業の展開がイメージしやすいように「学習の進め方」が設定され、議論や体験の様子が写真で具体的に示されている。</p>   |                      |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○UDフォントを用い、文字の大きさ、罫線や囲みの使い方、色使いなど、レイアウトを工夫して視認しやすくしている。中学校で学ぶ漢字や固有名詞などの漢字全てに振り仮名を付け、読みの負担を軽減する配慮がされている。<br/>                 ○内容項目の4つの視点について、マークを色分けして示している。巻頭では、それぞれの視点の関わりについて図で表現している。</p>  |                      |
| <p>総 括</p>       | <p>キャリア教育の理念のもとに各学年のテーマが設定されており、中学校3年間で系統的・発展的な学習ができるようになっている。各教材・コラムが生徒の発達段階や学校行事などを踏まえて配列されており、適切な時期に学ぶべきことを学べるように工夫されている。別冊の道徳ノートは罫線やマス目をなくし、生徒がより自由に表現できるようになっている。保護者記入欄が設けられており、家庭との連携を図ることができる。</p>   |                      |

種目（ 道 徳 ）

|                     |  |                               |
|---------------------|--|-------------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>新・中学生の道徳 明日への扉</p>  | <p>2 2 4</p> <hr/> <p>学 研</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;道徳科の目標に関わる工夫&gt;</p> <p>○巻頭に「見つけよう 考えよう 話し合おう 生き方につなげよう」という考えを深めるための4つのステップが示されている。また、巻末には「学びの記録」があり、生徒が自身の成長を認識し、次の学びにつなげるための工夫がある。学年ごとにテーマが設定され、系統立てて学ぶことができる。</p> <p>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</p> <p>○これからの生き方について考えるきっかけとなる問いが示されている。自身の思考や話し合いの流れを書きとめる欄があり、話し合いながら考えが深まっていく過程を可視化できるよう工夫されている。異なる視点が掲示されていて、物事を多角的に考えるヒントが示されている。</p> <p>&lt;情報モラルと現代的な課題に関する題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</p> <p>○情報モラルに関する教材は、発達段階に応じて系統的に各学年2つずつ配置されている。身近なテーマを取り上げ、情報モラルの観点から様々な道徳的諸価値について考えられるように工夫されている。いじめ防止につながる教材は、様々な内容項目から自他の生命を尊重し、他者と共によりよく生きることについて多面的・多角的に考えられるように配慮されている。</p> |                               |
| <p>資 料</p>          | <p>○生徒が自発的、主体的に取り組むことができる、読み物教材が掲載されている。絵や写真、図やグラフ等を大きく効果的に用いた「新感覚教材」を掲載し、多面的・多角的に思考する授業が展開できるよう工夫されている。</p> <p>○身近な出来事に関心をもち、自己を見つめるために様々な分野で活躍する今を生きる人たちの教材や、よりよく生きることの魅力や意味を考えるための先人たちの教材が掲載され、様々な生き方からの学びができる。</p>   |                               |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○本文には、UDフォントを用い、中学校以上配当の漢字や、固有名詞に振り仮名を付け、読みやすさに配慮がされている。発達段階に応じて、文字の大きさや字間に配慮がされている。</p> <p>○内容項目の4つの視点について、マークを色分けして示している。巻頭の教材一覧では、教材とテーマを内容項目の視点毎に分類して表記している。</p>  |                               |
| <p>総 括</p>          | <p>教材を通して考える発問と、道徳的諸価値について見つめ直して考える発問が設けられている。それらを通して、学びを深め自己を見つめることができるようになっていく。教材とは視点や内容の違う関連情報を掲載して、生き方の選択肢を増やし、学習を広げることができる。教材は、読み物だけでなく、グラフや写真、図を中心に構成したものが多く、多様な学習展開から、考え、議論する道徳につなげることができるようにしている。</p>  |                               |

種目（道徳）

|                  |  |                             |
|------------------|--|-----------------------------|
| <p>書名<br/>項目</p> | <p>中学生の道徳<br/>中学生の道徳ノート</p>  | <p>2 3 2<br/><hr/>廣あかつき</p> |
| <p>内 容</p>       | <p>&lt;道徳科の目標に関わる工夫&gt;<br/>○各教材に「学びの道すじ」が示され、生徒が学習の見通しをもって学ぶことができるよう構成されている。教材と道徳ノートの2冊セットで活用ができ、授業中の意見交流や、事後の振り返りを行うなど、考えの変化や深まりが実感できるよう工夫されている。教材末に、先人の言葉が記されている。</p> <p>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;<br/>○生徒が自分の未来を創るうえでどう生きたいのかを、具体的に自分事として考えられるよう、「道徳ノート」にも資料がついている。補助資料を活用したり、自分の言葉で記録をとったりすることで、友達との議論もさらに深まる。自身の成長も認識することができる教科書となっている。</p> <p>&lt;情報モラルと現代的な課題に関する題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;<br/>○現代的な課題に関する教材が、異なる立場での主張がなされるものや、様々な対立的な問題を抱える事柄が多いことを鑑み、一面的な扱いを避け、多様な見方・考え方ができるように留意されている。いじめや情報モラルに関しては、全学年の巻末に特集ページが設けられている。他の教育活動とも関連を図りながら折に触れて活用できるように工夫されている。</p> |                             |
| <p>資 料</p>       | <p>○各学年の発達の段階に即した教材が掲載されている。感動教材・人物教材、いじめ問題、現代的な課題、多様な指導方法ができる教材によって、考え、議論する授業を展開することができる。</p> <p>○教材と合わせて活用できる資料ページや巻末の特集ページで学びを広げ、深めることができる工夫がされ、別冊ノートにも特集ページや様々な資料が掲載され、資料集としても柔軟に活用することができる。</p>   |                             |
| <p>表記・表現</p>     | <p>○学習に支障をきたさないよう、文字情報、マークの形状やデザインの違いなどで必要な情報が読み取れるようにしている。各学年の未習漢字や固有名詞には振り仮名を付け、読み取りに差異が出ないように配慮している。</p> <p>○内容項目の4つの視点について、教材番号を色分けして示している。巻末では、内容項目と他の教育活動との関わりを一覧にして掲載している。</p>  |                             |
| <p>総 括</p>       | <p>教材と道徳ノートの2冊構成になっている。教材ごとに学習の道筋を示し、見通しをもって学ぶことができるようにしている。デジタル教科書に収録されている動画コンテンツや、ホームページ上の関連資料、全教材末に記載された先人の言葉など、補助教材が充実しており、これらを活用することにより、内容の理解を深めたり、考えを広げたりすることができる。「心のしおり」では、学期末・学年末等に学習全体の振り返りができるようにしている。</p>   |                             |

種目（ 道 徳 ）

|                     |  |                               |
|---------------------|--|-------------------------------|
| <p>書名</p> <p>項目</p> | <p>道徳 中学校</p>  | <p>2 3 3</p> <hr/> <p>日 科</p> |
| <p>内 容</p>          | <p>&lt;道徳科の目標に関わる工夫&gt;</p> <p>○巻頭にオリエンテーション資料があり、生徒が道徳を学ぶことの意義や観点について知り、目的意識をもって学ぶことができる。各教材に道徳的価値観の形成に必要な視点が盛り込まれている。価値観の多様性を体験したり、互いに認め合ったりできる寛容な心を育てられるよう工夫されている。</p> <p>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</p> <p>○教材やワークシートに、答えが一つでない道徳的な問題を取り上げ、生徒一人一人が“考える”状況を作りやすくする工夫をしている。中学生の実態をよく知る教師たちの書き下ろしのオリジナル作品も複数掲載されている。道徳の授業の目的にあった教材が使われている。</p> <p>&lt;情報モラルと現代的な課題に関する題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</p> <p>○「いじめを許さない心」の根底に不可欠な生命尊重への学びをより深める教材が多数取り上げられている。「正義」「寛容」「人権」「人間愛」など、様々な教材の主題で「いじめを許さない心」の育成を目指している。情報モラルを守る態度を身に付けるために、自分事として話し合うことができる教材を全学年に掲載している。</p> |                               |
| <p>資 料</p>          | <p>○学習指導要領の内容項目順に教材を配置しており、各地域、各学校の特色や方針によって、自由に各教材を活かすことができる。各教材では、教材内容や問いに自然と議論が巻き起こる仕掛けが施されている。</p> <p>○身近な生活体験や事象だけではなく、スポーツ・科学・オリンピック・パラリンピック・歴史などの様々なジャンルの先人の気高い生き方から、生きる勇気や知恵などを感じることができる教材が掲載されている。</p>  |                               |
| <p>表記・表現</p>        | <p>○目次や教材の見出し、本文の書体が統一されているとともに、難解な語句や用語は、脚注欄を活用し、読み取りに必要な補足説明がされている。コラムや参考資料の文は横書きで表記し、読み進めやすい工夫がされている。</p> <p>○内容項目の4つの視点について、色分けして示している。各教材には学習指導要領の内容項目内にある番号と対応する数字が記載されている。</p>  |                               |
| <p>総 括</p>          | <p>定番、オリジナル共に、教材が充実している。発達段階を考慮し、教材の学年間のつながりも重視して配列している。読み物だけでなく、写真、図表、新聞記事、討論など多彩な教材を扱い、道徳的諸価値について多面的・多角的に考えられるように工夫されている。それぞれの教材には、思考を揺さぶるような問いが設けられており、生徒たちが考える経験を自然に積み重ね、個々の道徳的価値観を形成できるように構成されている。</p>  |                               |